

第四十四條

法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收ス犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係リ又ハ所有主ナキ時ノ外之ヲ沒收スルヲ得ス〔刑〕四三、

○本條ハ前條ニ定メタル物件ハ何人ノ所有ニ屬スルトキ之ヲ沒收スルヲ得ル乎ヲ定ム  
法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收スルノ點ニ付テハ乙丙其說ヲ異ニセリ  
乙說ニ曰ク法律ニ於テ製造私有行使販賣等ヲ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒收スルモノナリ故ニ其私有ヲ禁セラレタルモノハ勿論行使ヲ禁セラレタ

ルモノヲ行使シ販賣ヲ禁セラレタルモノヲ販賣シタルトキハ其物件ハ即チ應禁物ナレハ其後何人ノ所有ニ屬スルニ論ナク總テ之ヲ沒收スヘシト

丙說ニ曰ク應禁物ハ其物件自ラ公安ヲ脅攪シ風俗ヲ紊亂スルノ恐アルモノナリト雖モ之ヲ所有スル人ニ因テ應禁物ト爲ラサルコトアリ故ニ法律ニ背キ毒藥ヲ販賣シタルモ之ヲ買得シタル者醫師ナルトキハ之ヲ沒收スルヲ得ス又猥褻ノ冊子圖書ヲ販賣シタルモ買得者秘密ニ之ヲ所有スルトキハ沒收スルヲ得サルナリト

右二說中乙說ハ能ク法文ニ適セルモノナリト雖モ道理上觀察ヲ下ストキハ頗ル背理ノ結果ヲ生スルヲ免カレス又丙說ハ少ク法文ニ適セサルヤノ疑アリト雖モ敢テ

背理ノ結果ヲ見ルコトナシ故ニ余ハ寧ロ丙說ヲ取ラントス然レトモ元來本條ニ法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハズ之ヲ沒收ストアルハ其當ヲ得サルモノト信ス今左ニ其所以ヲ辨セン

凡ソ刑罰ハ主刑附加刑ヲ問ハズ社會命令權ノ應報トシテ犯人ニ科スル所ノ罰ナリ故ニ應禁物犯人ノ所有ニ屬スルトキ之ヲ沒收スルニ於テハ其犯人ヲ懲罰スルノ效アリト雖モ若シ其他人ニ屬スルトキハ之ヲ沒收スルモ犯人ヲ懲罰スルノ效ナク徒ラニ其所有主ヲ罰スルニ至ラン故ニ附加刑トシテ應禁物ヲ沒收スルニハ必ズ其犯人ノ所有ニ屬スルヲ要シ其所有ニ屬セサルトキハ行政ノ規則ニ從ヒ警察上之ヲ沒收スヘシト爲サハ幾クハ其

當チ得ン尙ホ左ニ例ヲ舉ケテ之レカ結果ヲ示サン  
 例ヘハ貨幣ヲ偽造シタル場合ニ於テ其貨幣偽造人ノ所  
 有ニ屬スルトキハ之ヲ附加刑トシテ沒收スルモ既ニ他  
 人ノ手ニ移轉シタルトキハ之ヲ沒收セス行政規則ニ從  
 ヒ警察上之ヲ沒收スヘシ又私ニ銃砲彈藥ヲ製造シタル  
 場合ニ於テ其銃砲彈藥製造人ノ所有ニ係ルトキハ之ヲ  
 附加刑トシテ沒收スルモ既ニ他人ノ手ニ移轉シタルト  
 キハ直チニ之ヲ沒收セス其所有者ニ對シ附加刑トシテ  
 之ヲ沒收シ若クハ警察上之ヲ沒收スヘキナリ  
 右ノ如ク本條ヲ改メ總テ前條ニ定メタル物件ハ犯人ノ  
 所有ニ係ルトキノ外之ヲ沒收スルヲ得ストスルハ其道  
 理ニ適セルノミナラス亦好結果ヲ生スルモノナレハ立

法官ニ於テ速ニ此ノ如ク改正アラフコトヲ希望スルモ  
 ノナリ

又犯罪ノ用ニ供シ及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ應禁物  
 ニ非ス之ヲ沒收スルハ純粹ノ刑ナレハ其物件犯人ノ所  
 有ニ係リ又ハ所有主ナキトキノ外之ヲ沒收スルヲ得サ  
 ルナリ

或問テ曰ク犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因テ得タル物件  
 ノ所有主ナキニ非ス唯其所有主知レサルトキハ如何ス  
 ヘキ乎ト曰ク此場合ニ於テハ明治十六年司法省丙第二  
 十號達ニ因リ處分セサルヘカラス其達ニ曰ク犯罪ノ用  
 ニ供シタル物件及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ本案ノ裁  
 判ヲ言渡ス迄ニ所有主ヲ發見セサル時ハ刑法第四十三

條第四十四條ニ從ヒ其本案ノ裁判ト供ニ沒收ノ言渡ヲ爲スヘシト雖モ右ノ物件ハ之ヲ其裁判所々在ノ地及ヒ犯罪ノ地ニ公告シ一年間ヨリ起シタル日ニ所有主ヲ發見シタル時ハ檢察官ヨリ直ニ之ヲ還付スヘシ此旨爲心得相達候事但檢察官ニ於テ保存ス可カラサル物件又ハ保存スルニ付費用ヲ要スヘキ者ト思料スル時ハ公賣ノ處分ヲ爲シタル上其代金ヲ保存シ置クヘシト此レ實際上已ムヲ得サル便宜法ナルヘシ

### 第四節 徵償處分

○本節凡テ四條裁判費用物品返還損害賠償ニ關スル規則ヲ定ム

裁判費用物品返還損害賠償ニ關スル規則ヲ定ムルノ節ニ徵償處分ト題シタルハ少ク穩當ヲ闕クモノ、如シト雖モ徵償ノ語ハ吾カ國從來用ヒ來リシモノナレハ深ク其語意ニ拘泥セズシテ可ナラシ

### 第四十五條

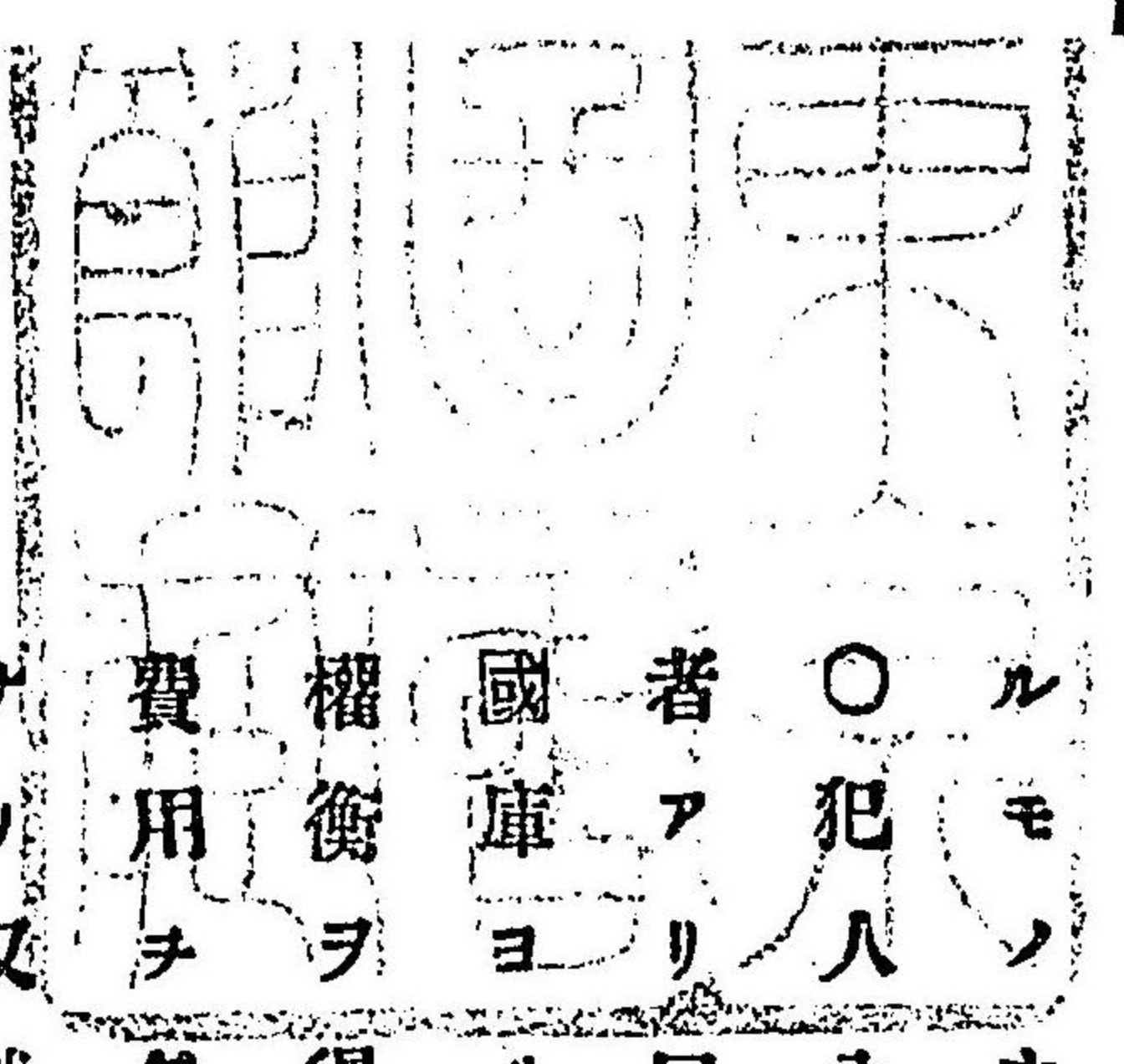
刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム刑四七、四八、治三〇七

一 本條ノ解

二 裁判費用ニ關スル規則ノ解

〔一〕○本條ハ裁判費用ハ犯人ニ於テ其全部又ハ幾分ヲ負擔スヘキ旨ヲ定ムルモノニシテ治罪法第三百七條ト至ク其精神ヲ同フス

治罪法第三百七條第一項ニ曰ク被告人刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ裁判所ノ職權ヲ以テ公訴裁判費用ノ全部又ハハ幾分ヲ擔當ス可キノ言渡ヲ爲ス可シト故ニ本條ニ所謂刑事ノ裁判費用トハ公訴ノ裁判費用ヲ指スモノナリ而シテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ此費用ヲ擔當セシムルモノハ業既ニ治罪法釋義ニ開說セシ如ク裁判費用ハ曲者ノ之ヲ擔當スヘキコト普通ノ條理ナレハ刑事ニ在テモ被告人刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ其公訴裁判費用ヲ擔當スヘシト定メタルナリ然レトモ必スシモ其全部ヲ擔當スルモノニ非ス被告人刑ノ言渡ヲ受ケタルモ若シ檢察官ノ誤見ニ因リ無益ノ費用ヲ要シタルトキハ被告人ヲシテ其全部ヲ擔當セシメス唯其幾分ヲ擔當セシム



ルモノナリ  
 ○犯人ヲシテ裁判費用ヲ擔當セシムルノ法ヲ非難スル者アリ曰ク裁判ヲ爲スハ國家ノ責任ナリ故ニ其費用ハ國庫ヨリ之ヲ支辨セサルヘカラス且犯人ハ既ニ犯罪ト權衡ヲ得タル刑罰ヲ受ケタリ然ルニ尙ホ之ヲシテ裁判費用ヲ負擔セシムルハ全ク罪ト刑トノ權衡ヲ破ルモノナリ又裁判費用ハ損害賠償ノ如ク犯人ノ所爲ニ因リ直接ニ生スル所ノ結果ニ非ス其費用ヲ來タシタルハ罪ニ非スシテ社會ニ於テ懲罰ヲ得ンカ爲メ爲シタル公訴ナリ今此公訴ニ因リ生スル費用ヲ犯人ニ負擔セシムルハ全ク誤レルモノナリト此非難說タル「フオースタン、エリー」氏原論能ク之ヲ辨セリ其要ニ曰ク右ノ說タル一應理ア

ルニ似タリト雖モ未ダ之ヲ以テ裁判費用ヲ犯人ニ負擔セシムルノ法ヲ廢セシムルニ足ラス抑罪ヲ犯スハ社會ト契約ヲ結フナリ即チ法律上要スル所ノ賠償ヲ社會ニ對シテ負擔スルノ義務ヲ約スルナリ凡ソ法律ヲ犯ストキハ必ス賠償ノ義務ヲ生ス蓋シ公ノ秩序ヲ維持スルニ闕クヘカラサルカ故ナリ而シテ此賠償タル公然犯人ニ刑ヲ適用スルヲ以テ足レリトセズ罪ニ因リ生セシ損害ハ悉ク之ヲ償ハシム彼ノ損害ノ賠償ハ罪ニ因リ生スル私ノ損害ヲ填補スルモノナリ是レト等シ裁判費用ヲ負擔スルハ公訴ニ因リ生スル損害ヲ填補スルモノナリ此公訴タル決テ被告人ニ關係ナク又其責ナキモノニ非ス即チ其犯セル罪ニ因リ生スル結果ノ一ニシテ其費用ヲ

負擔スルハ犯人暗ニ社會ニ對シ契約シタル義務ヲ履行スルニ外ナラス故ニ若シ其敗訴スルトキハ必ス之ヲ負擔セサルヘカラサルナリ或ハ曰ク裁判ヲ爲スハ國家ノ責任ナリト此點ニ付テハ少ク區別ヲ設ケテ論セサルヘカラス蓋シ裁判構成ニ關スル一般ノ費用ハ國家ニ於テ之ヲ負擔セサルヘカラスト雖モ事實發見ヲ目的トスルノ費用例ヘハ證人鑑定人ノ費用ハ當然犯人ニ於テ之ヲ負擔セサルヘカラス是レ此等ノ費用ハ直接ニ犯人ノ所爲ニ關係ナ有シ其所爲ニ因テ生シ其所爲ナケレハ生セサルモノニシテ全ク犯人ニ於テ賠償セサルヘカラサル民事ノ損害ナレハナリ加之此費用ハ到底犯人若クハ社會ニ於テ之ヲ擔當セサルヘカラス然ルニ過失アル犯人

ニ之ヲ免シテ一點ノ過失ナキ社會ニ之ヲ負ハシムルノ  
理アラサルナリト

右「フォースタン、エリー」氏ノ說ハ裁判費用ノコトヲ論スル  
盡セリト謂フヘシ

〔三〕〇裁判費用ニ關スル規則ハ刑法附則ニ之ヲ定メタリ左  
ニ其全文ヲ掲ク

刑法附則第四章 刑事裁判費用

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル証人醫師鑑

定人通辨人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及

ヒ第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑

事ノ裁判費用ト爲ス

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ

日當五拾錢

旅費一里拾錢

止宿料一宿貳拾五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ

呼出ノ地ニ滯在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里

未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

本條ハ明治十六年第三十九號布告ヲ以テ之ヲ改

正シタリ左ニ其全文ヲ掲ク

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ハ左ノ制限ニ

據リ各地方適宜其額ヲ定ム可シ

日當五拾錢以下

旅費一里拾錢以下

止宿料一宿貳拾五錢以下

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給與  
シ及ヒ呼出ノ地ニ滞在中ハ日當並ニ止宿料ヲ  
給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ  
給セス

第五十條 証人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求

アルニ非サレハ之ヲ給與セス

第五十一條 証人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第

百九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外

若干ノ償金ヲ給スルヲアル可シ

第五十二條 解剖舎密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要

スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未ダ之ヲ納メサ

ル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之ヲ徵

收ス

右五條ハ一讀明了且非難スヘキモノアラサレハ別ニ之

ヲ解釋ヲ下サス

第四十六條

犯人刑ニ處セラレ又ハ放免セララル、ト雖モ被害者ノ

請求ニ對シ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ免カル、トテ得

ス刑四七、四、八、  
治八、

一 本條ノ解

二 刑法附則第五章ノ解

〔一〕〇本條ハ被告人刑ノ言渡ヲ受ケタルト無罪免訴ノ言渡



ヲ受ケタルトチ問ハス被害者ノ請求ニ對シ物品返還損害賠償ヲ免カル、チ得サル旨ヲ定ムルモノニシテ治罪法第八條ト全ク其主旨ヲ同フス  
 然レトモ本條ト治罪法第八條トチ對照スルトキハ治罪法第八條ノ方其文正鵠ナリト謂フヘシ第一本條コハ犯人トアリ治罪法コハ被告人トアリ刑ノ言渡アリタル場合ニ於テハ犯人ト稱スル可ナリト雖モ無罪免訴ノ言渡アリタル場合トチ問ハス通シ用フヘシ第二本條ニハ賊物還給トアリ治罪法コハ單ニ返還トアリ被告人刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ賊物還給ノ語ヲ用フヘシト雖モ被

告人無罪免訴ノ言渡ヲ受ケタルトキハ賊物ト稱スヘキモノナシ故ニ賊物還給ノ語ヲ用フヘカラサルナリ之ニ反シテ返還ノ語ハ賊物ト否トコ拘ハラス物品ノ返還ヲ示スカ故ニ被告人刑ノ言渡ヲ受ケタル場合ト無罪免訴ノ言渡ヲ受ケタル場合トチ問ハス通シ用フヘキナリ  
 本條ノ主旨ハ治罪法第八條ニ於テ開説シタル所ト同一ナレハ茲ニ於テハ唯簡略ニ其要旨ヲ開陳スヘシ  
 抑公訴私訴ハ密着シテ離ルヘカラサルモノナリ公訴消滅スレハ私訴モ亦從テ消滅ス故ニ被告人無罪免訴ノ言渡ヲ受ケ公訴消滅シタルトキハ私訴モ亦從テ消滅シ被害者ヨリ之ヲ要ムルチ得スト雖モ而モ公訴ト通常民事ノ訴トハ互ニ特立スルモノナレハ縱ヒ公訴消滅スルモ

通常民事ノ訴ハ仍ホ依然トシテ存スルモノナリ故ニ例  
ヘハ被告人盜罪ノ嫌疑ヲ受ケ惡意ナキカ若クハ他人ノ  
所有物タルヲ知ラサルカ故ニ無罪ノ言渡ヲ受ケタルト  
キト雖モ若シ其物品被告人ノ手ニ在ルトキハ必ス之ヲ  
所有主ニ還付セサルヘカラス又若シ之ヲ消費シタルト  
キハ相當ノ代價ヲ償ハサルヘカラス是レ本條ノ設ケア  
ル所以ナリ

○刑法附則第五章ニ賠償處分ヲ定メタリ因テ左ニ其全  
文ヲ掲ケ之カ解釋ヲ下スヘシ

刑法附則第五章 賠償處分

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者

ニ還付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ

被害者ノ請求ニ因リ還給セシムル者トス

本條ハ贓物還給ニ關スル規則ヲ定ム

贓物ノ返還ハ私訴ノ目的トスル所ナリ故ニ被害者ノ請  
求ナキトキハ裁判所ニ於テ職權ヲ以テ之ヲ還付スヘキ  
ノ言渡ヲ爲スノ理ナシ然レトモ若シ其贓物犯人ノ手ニ  
在ルトキハ例外トシテ被害者ノ請求ナシト雖モ直チニ  
還付スヘキノ言渡ヲ爲ス是レ本條ノ設ケアル所以ナリ  
然レトモ贓物犯人ノ手ニ在ルトキ直チニ之ヲ被害者ニ  
還付スルノ法ハ少ク其當ヲ失セルヤノ疑アリ左ニ之ヲ  
辨セン

治罪法第三百八條ニ曰ク被告人刑ノ言渡ヲ受ケタルト  
否トヲ問ハス沒收ニ係ラサル差押物品ハ所有主ノ請求

ナシト雖モ之ヲ還付スルノ言渡ヲ爲スヘシト此條ノ精神タル裁判所ニ於テ差押ヘタル物品中沒收スヘキモノハ格別他ハ被告人ノ占有スルト他人ノ占有スルトニ拘ラス又所有主ノ請求アルト否トニ拘ラス裁判所ニ於テ所有主ニ非サル者ニ之ヲ下付スルノ理アラサレハ之ヲ其所有主ニ下付スヘシト爲スニ在リテ能ク其當ヲ得タルモノナリ然ルニ本條ニハ贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ其既ニ差押ニ係ルト否トヲ問ハス之ヲ還付シ他人ノ手ニ在ルトキハ其差押ニ係ルト否トニ拘ラス之ヲ還付セスト定メタリ贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ多クハ之ヲ差押フルモノナリト雖モ若シ之ヲ差押ヘサルトキ被害者ノ請求ナキニ之ヲ還付スヘキノ言渡ヲ爲スハ少ク道理

ニ反スルモノナリ又贓物他人ノ手ニ在ルト雖モ其公商ニ由リ買取シタルニ非スシテ裁判所ニ於テ之ヲ差押ヘタルトキ被害者ノ請求アルニ非サレハ之ヲ下付セサルハ少ク法理ニ戻レルモノナリ然レトモ此第二ノ場合ニ於テハ本條ニ轉シテ他人ノ手ニ在ルトキハ被害者ノ請求ニ因リ還給セシムル者トストアルニ拘ハラス治罪法第三百八條ニ從ヒ之ヲ其所有主ニ下付スヘシ之ヲ下付スルモ決テ法律ニ觸ル、コトナカルヘシ何トナレハ刑法附則ハ刑法ニ漏ル、所ノ細則ヲ定ムルニ止マリ之ヲ以テ治罪法ノ規則ヲ改正シタルニ非サレハ治罪法ニ從ヒ之ヲ其所有主ニ下付スルモ敢テ其妨ケアラサレハナリ又第一ノ場合ニ於テハ治罪法ノ規則ニ從フヘキ乎

將タ刑法第四十八條末文ニ基キ定メタル所ノ本條ノ規則ニ從フヘキ乎請フ第四十八條ニ至テ之ヲ辯明セン

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルコトヲ得ス

若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムトヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉價ヲ求ムルヲ得

本條ハ贓物他人ノ手ニ在ルトキ之ヲ被害者ニ還給スルノ規則ヲ定ム

贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ルトキハ其公商ニ由リ買取

シタルト否トヲ區別シ若シ其物品公商ニ由リ買取シタルトキハ其公商若クハ被害者ヨリ原價ヲ償ハサレハ之ヲ取戻スヲ得ス若シ其物品公商ニ由リ買取シタルニ非サルトキハ直チニ之ヲ取戻スヲ得ルモノナリ  
公商ニ由リ買取シタル物品ハ原價ヲ償フニ非サレハ之ヲ取戻スコトヲ得ストノ法ヲ非難スル者往々之レアリト雖モ余ハ敢テ此法ヲ不當トセサルナリ凡ソ權利中所有權ハ其尤モ重大ナルモノナレハ法律ハ充分ニ之ヲ保護セサルヘカラスト雖モ正ク公商ニ由リ買取シタル者ノ權利モ亦之ヲ等閑ニ付スルヲ得ス若シ之ヲシモ保護スル所ナクハ吾人ノ財産ハ恰モ浮雲ノコトク何時何人ヨリ其所有權ヲ証明シテ取り去ラル、ヤモ知ルヘカ

ラス此ノ如ク公商ニ由リ正ク買取シタル物品ヲモ時々  
 取り去ラル、ニ於テハ其商業ノ隆盛ヲ障礙スル亦少カ  
 ラサルナリ故ニ吾カ刑法ニ於テハ佛朗西國ノ如ク盜品  
 ニ付テハ三十年ヲ以テ期滿免除ノ期限ト爲シ偏ニ所有  
 主ヲ保護スルコトヲ爲サス所有主ニハ其物品ヲ取戻ス  
 ノ權ヲ與ヘ買取者ニハ原價ヲ受取ルニ非サレハ其物品  
 ヲ渡サ、ルヲ得ルノ權ヲ與ヘ何レモ平等ニ之ヲ保護シ  
 タリ故ニ公商ニ由リ買取シタルト否トニ因リ區別ヲ設  
 ケタルノ法決テ不當ニ非サルナリ

本條ニ付テハ須ク注意スヘキコトニアリ第一公商ニ由  
 リ贓物ナルコトヲ知テ物品ヲ買取シタル者ニ對シテハ  
 如何第二被害者ハ公商ヲシテ占有者ニ對シ原價ヲ償ハ  
 シムルヲ得ルヤ如何今左ニ之ヲ辨セシ

第一 他人公商ニ由リシト雖モ其贓物ナルコトヲ知テ  
 之ヲ買取シタルトキハ被害者直チニ之ヲ取戻スヲ得ル  
 乎將ダ本條ノ規則ニ從ヒ原價ヲ償フニ非サレハ之ヲ取  
 戻スコトヲ得サル乎○此場合ニ於テハ被害者直チニ物  
 品ヲ取戻スヲ得ヘシ蓋シ法律ノ精神タル公商ニ由リ物  
 品ヲ買取シタル者ハ概テ其出處ノ正キヲ信シ一點ノ惡  
 意ナキモノナレハコソ之ヲ保護シタルナリ然ルニ縱ヒ  
 公商ニ由ルモ其贓物タルヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ正  
 シ買取シタルモノニ非サレハ法律之ヲ保護スルノ理ア  
 ラサルナリ或ハ曰フ法律ニ公商ニ由リ物品ヲ買取シタ  
 ル者ハ償ヲ得ルニ非サレハ其物品ヲ取戻サル、コトナ

シトアル以上之ヲ買取シタル者ハ其惡意ノ有無ヲ問  
 ハズ償ヲ得ス。之ヲ取戻サル、コトナキノ權利ヲ得  
 シモノナラント曰ク否ナ此ノ如キ者ハ其心實ニ惡ムヘ  
 ヲ法律決テ之ヲ保護スルニ及ハズ畢竟法律ハ惡意ナキ  
 者ヲ保護スルノ精神ナレハ惡意アル者ハ決テ此法律ノ  
 保護ヲ受クヘカラサルナリ

第二 被害者ハ公商チシテ原價ヲ償ハシムルヲ得ル乎  
 ○宮城氏講法律義曰ク附則第五十五條ニ曰ク云々其公商若  
 シハ被害者ヨリ買取者ニ原價ヲ償ハサレハ云々ト然ルニ  
 此原價ヲ償ヒタル後チ犯人資産ナクシテ轉償ノ路絶ル  
 時此損害ヲ負擔スル者ハ被害者ニアルヤ將タ公商ナル  
 ヤ辭ヲ改メテ之ヲ言ヘハ買取者原價ヲ要求スルニ當リ

被害者ハ先ツ公商チシテ之ヲ償ハシメントチ請求スル  
 ヲ得ルヤ此點ニ關シテハ法ニ明文ナシト雖モ之ヲ理論  
 ニ照セハ犯人貧困ナルカ若クハ他ノ原因ヨリシテ轉償  
 ノ路ナキ時ハ原價ノ賠償ヨリシテ生シタル損害ハ結局  
 公商之ヲ負擔セサル可カラス故ニ被害者ハ訴訟ノ際公  
 商ヲ以テ私訴ノ關係人ト爲シ之ニ原價ヲ償ハシムル  
 ヲ請求スルヲ得ヘシ何トナレハ若シ物品猶ホ公商ノ手  
 ニアリトセハ被害者原價ヲ償ハスシテ取還スルヲ得ヘ  
 シ又公商ハ常人ヨリ買取シタルヲ以テ被害者ノ請求ニ  
 應セサルヲ得サル可シ然ラハ此公商ハ假令物件チ他人  
 ニ賣リタルニモセヨ此責任ニ關シテハ其位置ヲ變スル  
 ノ理ナク從テ己レ自ラ原價ヲ出シテ物件ヲ取戻シ之ヲ

被害者ニ交付スルノ義務アルヲ致セハナリ試ミヨ看ヨ  
 此ニ贓物ト知ラスシテ公商ニ由リ買取シタル者アリテ  
 被害者ヨリ還給ヲ請求セラル、ニ當リ原價ヲ要求セス  
 シテ之ヲ還給シ後チ公商ニ係リテ原價ノ賠償ヲ請求セ  
 シニハ公商ハ之ヲ拒ムト得ルヤ如何疑モナク公商ハ  
 賣物保証義務ノ元則ノ爲メ決シテ之ヲ拒ムチ得サルナ  
 リ然テハ則チ此請求買取人ヨリ來ルモ被害者ヨリ來ル  
 モ其理一ナルヲ以テ公商ハ被害者ノ請求ヲ辭スル能ハ  
 サルヤ昭々乎トシテ火ヲ賭ルカ如キチ予之ヲ聞ク嘗テ  
 舊律ノ下ニ於テ某裁判所ニ先ツ公商ヲシテ償ハシメン  
 トチ被害者ヨリ請求セシニ某裁判所ニ於テ之ヲ受理セ  
 サリシト予其事由ヲ詳カニセスト雖モ是レ全ク予ノ前

ニ説ク所ト相反スルモノ、如シ果シテ是歟非歟予ハ予  
 ノ説ヲ確信シテ疑ハサルナリト法律ニハ公商若クハ被  
 害者云々トアリ故ニ宮城氏ノ説其當ヲ得タルニ似タリ  
 ト雖モ余ハ之レカ反對ノ説ヲ主唱スル者ナリ左ニ之ヲ  
 辨セシ

抑物品ヲ盜取若クハ詐取セラレタル者ハ其物品ニ付キ  
 物上權ヲ有スル乎將タ對人權ヲ有スル乎ト問ハ、何人  
 ト雖モ其物品現在スル以上ハ被害者物上權ヲ有ス者被害  
 者ハ被  
 告人ニ對シタル物品毀損ノ償金其他其物品ヲ取ラレタル  
 爲メ人生シタル損害ノ償金其他其物品ト雖モ事枝葉  
 ニ之ヲ説カステ茲ルト答ヘン何トナレハ公商ニ由リ物品  
 ヲ買取シタル者公商若クハ被害者ヨリ原價ヲ償フニ於  
 テハ必ス其物品ヲ返還セサルヘカヲサレハナリ故ニ被

害者ハ物品占有者ニ係リテ物上權ヲ行フヲ得ルモ公商  
 ニ對シテハ一ノ權利ヲモ有セス是レ公商ハ被害者ニ對  
 シ義務ヲ負フノ原因アラサルハナリ故ニ被害者ハ公商  
 ナシテ先ツ原價ヲ償ハシムルヲ得ス若シ然ラスシテ被  
 害者ニ公商ヲシテ原價ヲ償ハシムルノ權利アリトセハ  
 若シ其物品滅盡シタルトキハ之ニ對シテ損害ノ償ヲ要  
 ムルノ權利ナカルヘカラス此ノ如キ理ハ決テアルヘカ  
 ラサルナリ  
 又公商ニ賣物保証ノ義務アリ云々トノ說ハ一應理アル  
 ニ似タリト雖モ深ク之ヲ探究スルトキハ其全ク本件ニ  
 關係ナキヲ知ルヘシ蓋シ贓物ニ就テハ公商ニ所有權ナ  
 シ所有權ナキモノハ之ヲ賣ルヲ得サルコト今日普通ノ

原理ナレハ公商ニ於テ買取者ニ對シ其責ニ任スルコト  
 敢テ一點ノ疑ヲ容レサルナリ然レトモ是ハ買取者ニ對  
 スルノ義務ニシテ被害者ニ對スルノ義務ニ非ス故ニ買  
 取者ヨリ要償スルヲ得ルモ被害者ヨリ要償スルヲ得サ  
 ルナリ左ニ例ヲ掲ケテ之ヲ明カニセン  
 例ヘハ甲有物品所乙ニ物品ヲ竊取セラレタリ乙其物品ヲ  
 丙非公商ニ賣渡シ丙ハ之ヲ丁商公ニ賣渡シ丁之ヲ戊物品  
 者ニ賣渡セリ今此場合ニ於テ乙丙丁ハ何レモ所有權ナ  
 キ物品ヲ賣渡シタルモノナレハ乙ハ丙ニ對シ丙ハ丁ニ  
 對シ丁ハ戊ニ對シテ賣品保証ノ原則ニ依リ損害ヲ償フ  
 ノ義務アリ此場合ニ於テ宮城氏ハ被害者何人ヲシテ原  
 價ヲ償ハシムルヲ得ルト爲ス乎氏ハ丁ヲシテ之ヲ償ハ



シムルヲ得ルト爲ス者ノ如シ然ラハ何故コ乙丙ヲシテ  
 之ヲ償ハシムルヲ得ストスル乎丁ニ保証ノ義務アレハ  
 乙丙ニモ亦保証ノ義務アリ而ルチ彼ヲ捨テ、之ヲ取ル  
 ハ全ク擅横ノ處置タルチ免カレサルナリ況ヤ既ニ開説  
 セシ如ク乙丙丁ニハ買取者ニ對シ保証ノ義務アルモ所  
 有主ニ對シ保証ノ義務ナキニ於テヲヤ公商ヲシテ原價  
 ナ償ハシムルハ全ク其理ニ反スルコトナリ  
 右ノ如キヲ以テ余ハ被害者物品ヲ取戻サントスルトキ  
 ハ占有者ニ原價ヲ償ヒ而シテ其償ヲ被告人ニ要ムヘシ  
 之ヲ他ノ者ニ要ムヘカラサルナリ  
 或曰ク然ラハ何故コ法律ニ公商若クハ被害者云々ト書  
 シタル乎ト曰ク此疑ヤ理アリ然レトモ余思フニ法律ニ

公商ノ語ヲ記入シタルハ全ク民間ノ習俗ニ從ヒシモノ  
 ナラン吾カ國ノ習俗タル公商贓物チ人ニ販賣シ後其贓  
 物タルチ知リタルトキハ多クハ買取者ニ原價ヲ償ヒ之  
 ヲ取戻スモノナリ故ニ立法官此習俗ニ從ヒ法律ニ公商  
 ノ語ヲ記入シタルニシテ決テ被害者公商ヲシテ原價ヲ  
 償ハシムルヲ得ル旨ヲ定メタルニ非サルナリ  
 本條第一項但書ハ必要ナル規則ニ非ス何トナレハ賣主  
 ハ物品保証ノ義務アレハ買主其物品ヲ取去ラレタルト  
 キ之ニ對シ轉償ヲ要ムルチ得ルハ全ク民事ノ規則ニシ  
 テ刑法附則ヲ待テ然ルモノニ非サレハナリ  
 本條ノ釋義ヲ終ルニ臨ミ一言陳スヘキコトアリ原價ヲ  
 償フノ當否即チ是レナリ凡ソ物品ハ時々價ヲ異ニスレ

ハ今日拾圓ノ價アル物モ明日ハ七圓若クハ拾五圓ト爲ルコトアリ故ニ一概ニ原價ヲ償フヘシトスルトキハ或ハ被害者ヲ害シ或ハ占有者ヲ害スルニ至ラン占有者ニハ所有權ナキヲ以テ之ニ損害ヲ來タスハ或ハ忍フヘシト雖モ被害者ニ損害ヲ來タスハ實ニ忍ヒサルコトナリ且占有者公商ニ由リ物品ヲ買取シタル後其過失等ニ因リ物品ノ價額ヲ減スルコトナキニ非ス然ルニ仍ホ原價ヲ償フニ非サレハ之ヲ取戻スヲ得スト爲スハ少ク其當ヲ得サルヘシ故ニ余ハ立法官ニ於テ相當ノ價ヲ償ヒ之ヲ取戻スヲ得ルト改メラレシコトヲ希望スルモノナリ

第五十六條 贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者

其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムヲ得ス但典物トシテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得本條ハ贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取リタル者其贓物現存スルトキハ如何スヘキ乎ヲ定ム  
 贓物ヲ買取シタルニ非ス唯之ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取リタル者ハ縱ヒ公商ニ由リ之ヲ得タリト雖モ被害者ニ對シテ直ニ物品ノ還給ヲ拒ムコトヲ得ス而シテ茲ニ所謂贓物ヲ受ケルトハ如何ナル場合ヲ指ス乎小笠原美治氏註刑法釋法曰ク贓物ヲ受クルトハ之ヲ償ヒ受クルヲ云フト余以爲ラン贓物ヲ受クルトハ賣買交換ニ因リ及ヒ典物トシテ得タルノ外他一切ノ場合ヲ指スモノナラン是レ附則第五十五條ニ買取シタル場合ノ規則ヲ定メ本

條ニ典物トシテ得タル場合ノ規則ヲ定メ第五十七條ニ  
 交換シタル場合ノ規則ヲ定メ而シテ他ニ此三種ヨリ以  
 外ノ場合ニ關スル規則アラサレハナリ故ニ贓物ヲ受ク  
 ルトハ人ヨリ貰受クルハ勿論之ヲ借受若クハ之ヲ受托  
 シタル場合ヲモ亦包含スルモノナリ  
 或問テ曰ク何故ニ公商ニ由リ物品ヲ買取シタル者ヲ保  
 護シテ之ヲ借受ケ若クハ之ヲ貰受ケタル者等ヲ保護セ  
 サル乎ト曰ク立法ノ意蓋シ公商ハ物品賣買ヲ業トスル  
 者ナレハ之ニ由リ物品ヲ買取シタル者ハ之ヲ保護スル  
 モ他ノ方法ニ因リ得タル者ハ公商ニ非サル者ヨリ得タ  
 ルト同一ナレハ之ヲ保護スルニ及ハスト爲セシモノナ  
 ラン是レ決テ其理ニ戻レルモノニ非サルナリ

本條但書ハ前條第二項但書ト同一ノ規則ヲ定ムルモノ  
 ニシテ殆ト無要ノ規則ナリ音ニ無要ナルノミナラス亦  
 其法文ニ拘泥スルトキハ或ハ大ナル誤謬ヲ來タスノ憂  
 アルモノナリ抑典物トシテ物品ヲ受取リタル者ノミ轉  
 償ヲ要ムルヲ得ルモノニ非ス之ヲ借用シ之ヲ貰受ケタ  
 ル者モ亦轉償ヲ要ムルヲ得ヘキナリ何トナレハ一旦人  
 ニ贈與シタル物ハ受贈者ノ所有ニ屬スレハ若シ受贈者  
 眞ノ所有主ヨリ其物品ヲ取還セラル、トキハ贈與者ニ  
 對シ損害ノ償ヲ要ムルヲ得ヘク又人ヨリ物品ヲ借受ケ  
 タル者ハ其期限間之ヲ利用スルノ權アリ然ルニ突然眞  
 ノ所有主ヨリ其物品ヲ取還セラル、トキハ貸與者ニ對  
 シ損害ノ償ヲ要ムルヲ得ヘシ然ルニ本條ニハ唯典物ト

セテ受取タル者ハ典主ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得トアレハ或ハ借主若クハ受贈者ハ損害ヲ要ムルヲ得サルトノ誤解ヲ來タスコトナキヲ保セサレハナリ然レトモ此要償ノコトハ通常民事ノ規則ニシテ刑法附則ヲ待テ始メテ然ルモノニ非サレハ本條ノ明文ニ拘泥スルコトナク借主若クハ受贈者等ヨリモ仍ホ損害ノ償ヲ要ムルヲ得ヘキナリ

第五十七條 贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ルト否トヲ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ本條ハ贓物交換シテ現在スルトキハ如何スヘキ乎ヲ定ム  
交換トハ物品ト物品トヲ交換スルノ謂ニシテ彼ノ物品

ト通貨トヲ交換スル賣買トハ異ナレリ然レトモ賣買ハ元ト交換ノ一轉シタルモノニシテ古ヘ通貨ノ設定ナキ時ニ在テハ交換アリテ賣買ナク賣買ハ通貨ノ設定以後ノモノナレハ賣買ト交換トハ大ニ其性質ヲ同フスル所アリ故ニ法律ニ於テモ亦交換ト賣買トニ關スル規則ヲ一ニシタルナリ  
第五十八條 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得  
本條ハ贓物現存セス又ハ識別スヘカラス又ハ其所在知レサル場合ノ規則ヲ定ム  
犯人其他ノ者贓物ヲ費消シタルトキ例ヘハ米ヲ食ヒ盡

シタルトキ若クハ物品ヲ毀壞シタルトキノ額ハ其物品  
 既ニ滅盡シタルヲ以テ之ヲ取還スルコトヲ得ス唯被告  
 人ニ對シテ損害ノ償ヲ要ムルヲ得ルノミ是レ本條ニ賊  
 物已ニ費用シタル時云々トアル所以ナリ  
 又前數條ハ總テ確定物ニ關スル規則ナリ確定物ハ其物  
 品特定セルヲ以テ何人ノ占有スルヲ問ハス之ヲ取還ス  
 ルヲ得ルモ若シ其物品確定セサルトキハ被害者其物品  
 ニ付キ物上權ヲ有セス被告人ニ對シテ對人權ヲ有スル  
 ノミ故ニ其物品ヲ追フテ權利ヲ行フヲ得サルナリ是レ  
 本條ニ識別ス可カラサル時云々トアル所以ナリ  
 又賊物確定シテ被害者ニ物上權アリト雖モ若シ其目的  
 タル物權ノ所在知レサルトキハ其權ヲ行フヲ得ス故ニ

其損害ノ償ヲ被告人ニ對シ要ムルヲ得ルノミ是レ本條  
 ニ其所在ノ知レサル時云々トアル所以ナリ

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關スル損害其他

犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スル  
 ヲ得但失火ハ此限ニ在ラス

本條ハ賊物返還ノ一變シテ爲リタル損害賠償ニ非ス純  
 粹ナル損害賠償ニ關スル規則ヲ定ム  
 被害者ヨリ殺傷其他犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償ヲ  
 要ムルヲ得ルコトハ治罪法釋義第二條ニ詳說セシ如ク事  
 物ノ自然ニシテ敢テ一點ノ疑ヲ容レサルナリ唯名譽ニ  
 關シタル損害ニ至テハ或ハ異論ヲ唱フル者アリト雖モ  
 若シ人ノ名譽ヲ害シ眞ニ損害ヲ來タシタルトキハ被害

者ニ其賠償ヲ要ムルノ權利ナキノ理アラサルナリ  
 本條ニハ現ニ生シタル損害トアリ故ニ往々既ニ生シタ  
 ル損害ノ償ニ止リテ將來ノ損害ノ償ヲ要ムルヲ得スト  
 云フ者アリ余思フニ現ニ生シタル損害トハ偏ヘニ既生  
 ノ損害ノミヲ指スモノニ非ス現ニ見積ルヲ得ヘキ損害  
 ハ其既生將來ヲ問ハス必ス之カ償ヲ要ムルヲ得ルモノ  
 ナラン若シ然ラスシテ既生ノ損害ニ非サレハ之カ償ヲ  
 要ムルヲ得ストセハ實際上甚キ不都合ヲ生スヘシ例ヘ  
 ハ茲ニ人ニ毆打創傷セラレタル者アリ裁判言渡ノ當時  
 マテ五十日間疾病ニ罹リ醫藥ノ料百圓ヲ費シ且得ヘキ  
 利益三百圓ヲ損シタリトセシニ其疵傷未ダ全癒セス尙  
 ホ治療ニ五十日間ヲ要スル場合ニ於テ若シ既生ノ損害

ニ非サレハ之カ賠償ヲ要ムルヲ得ストセハ被害者ハ四  
 百圓ノ賠償ノ外之ヲ要ムルヲ得サルヘシ此ノ如クスル  
 トキハ現ニ見積リ得ヘキ將來ノ損害四百圓ヲ失フニ至  
 ラン此ノ如キ理ハ決テアルヘカラサルナリ  
 又本條但書ニハ失火ハ此限ニ在ラストアリ此ノ例外タ  
 ル果テ如何ナル理由ニ基ケル乎小笠原美治氏刑注釋曰ク  
 其理由ハ僅カニ左ノ二點ニ過キサレノミ第一失火人ハ  
 不注意ノ罪アリト雖モ其失火ノ爲メ自己ニ於テモ亦大  
 ナル損害ヲ招キタル者ナレハ他人ニ對シ賠償ヲナスル  
 ハ更ニ困難ヲ重キ之カ爲メ零落シテ途ニ路頭ニ彷徨ス  
 ルニ至ル可キカ故ナリ第二一戸火ヲ失シテ爲メニ數十  
 戸ヲ延焼スルノ間々之レアリ此場合ニ於テ數十戸ノ被

害者擧テ賠償ヲ求ムルモ其得ル所ノ額ハ誠ニ些少ニ過  
キサレハ絶テ訴訟ヲ爲スノ利益ナキカ故ナリト此レ果  
テ立法官ニ於テ此例外ヲ設ケタルノ理由ナル乎之ヲ詳  
知スルニ由ナシ且此理由タル此例外法ヲ設クルニハ未  
ダ以テ充分ナリトセス然レトモ他ニ之カ充分ナル理由  
アラサレハ茲ニ之ヲ説カサルナリ

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判ス  
ル刑事裁判所ニ請求スルヲ得若シ其審判已ニ終  
リタル後ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ請求スルヲ  
得ス

本條ハ私訴ノ裁判管轄ヲ定ムルモノニシテ治罪法第四  
條及ヒ第百十一條ト全ク其主旨ヲ同フス

刑事裁判所ハ公訴ヲ受理審判スルノ處ニシテ私訴ハ其  
公訴ニ附帶スルカ故ニ之ヲ管理スルノミ故ニ贓物ノ還  
給損害ノ賠償ハ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ之ヲ訴フ  
ルヲ得ルモ若シ其審判既ニ終リタル後ハ民事裁判所ニ  
非サレハ之ヲ訴フルヲ得サルナリ

然レトモ治罪法第百十條ノ規則ニ從ヒ被害者ハ公訴未  
タ起ラサルモ直チニ豫審判事ニ私訴ヲ爲スヲ得ヘシ

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠  
償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ  
爲スヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟  
ノ程式ニ從フ可シ

本條ハ私訴ノ順序ヲ定ム

治罪法ニ於テハ人民ヨリ爲スヘキ手續ニ程式ヲ設ケ以テ之ヲ拘束スルヲ欲セサレハ一モ書式等ノ設ケナシ故ニ刑事裁判所ニ私訴ヲ爲ストキハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ民事ノ訴訟ニハ自ラ程式アルヲ以テ民事裁判所ニ之ヲ爲ストキハ必ス其程式ニ從ハサルヘカラサルナリ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯死スル時

ハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルヲ得

私訴即チ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ要ムルノ訴ハ民事ノ訴ナレハ本犯死スルト雖モ決テ其消滅スルノ理ナシ則チ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルヲ得ルモノナリ  
宮城氏法律曰ク相續人ニ付キ甚タ明瞭ナラサル所アリ

是レ相續法ノ備ハラサルニ出ル事ナリ我國ニ於テハ監督相續ノ法ハ僅カニ是レアリト雖モ財產相續ノ法ハ絶ヘテ是レナシ加之財產ハ人ニ屬スルトイハンヨリモ寧ロ家ニ屬ストイハンガ如キ形狀ナリ何トナレハ一戸主アリテ隱居センニ其財產ハ隱居シタルノ事ニ依テ戸主ノ所有ト看做サレ後戸主ハ家名ヲ相續シタルノ事ニ依テ亦先戸主ノ財產ヲ所有スルモノト看做サルレハナリ且其兄弟子女等ノ籍ヲ同フスルモノハ假令ヒ其實己レノ得タル財產ナルモ戸主皆之ヲ所有スルモノト看做サレ若シ戸主身代限りノ處分ヲ受クルキハ一家中ニ在ル者ノ財產ハ悉皆戸主ノ身代限ノ處分中ニ加ヘラルルガ如キ例規ナリ故ニ犯人擔當人ノ家名カ連帶シテ返



還賠償ノ責ニ任シ其家名中ニ在テ籍ヲ同フスル者ノ財産ハ皆此返還賠償ノ資ニ供セサルヘカラサルナリ法律上ヨリ論スルルハ實ニ如此クナラサルヲ得スト雖モ是レ眞ニ酷ノ甚シキモノナリ然レモ是レ犯人擔當人ノ戸主タルルノミノトニシテ若シ其戸主ダラサルルハ決テ其家族ニ於テ此責ニ任スルヲナシ且ツ何レノ場合ニ於テモ公債証書地券ノ如キ公証ヲ經テ記名アルモノハ別段ナリ故ニ又一方ヨリ觀レハ甚ダ寬ニ失スルヲナキニ非ス例ヘハ犯人ニ二子アリ犯人此次子ニ與フルニ公債証書ヲ以テセンニ次子タル者ハ實ニ財産ヲ相續セシモノナリト雖モ更ニ返還賠償ノ責ニ任スルヲナシ如此ク財産ヲ相續スルモノハ却テ責ヲ免カレ而シテ家名ヲ相續

スル長子ハ一錢ノ財産ヲ受ケスト雖モ其子々孫々ニ至ル迄皆連帶ノ責ヲ負ハサルヲ得サルナリ不公平モ亦甚シカラスヤ此事件ニ付テハ唯切ニ希フ速ニ相續法ノ改正アラントヲト實ニ吾カ國未ダ完全ナル相續法アラサレハ相續ノコトニ付テハ往々不都合ナル結果ヲ生スルコトアリ故ニ余ハ宮城氏ト共ニ完全ナル相續法ノ設ケアラントコトヲ切望スルモノナリ

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルヲ得

本條ハ私訴裁判ノ執行ニ關スル規則ヲ定ムルモノニシテ別ニ解釋ヲ要セス

○佛刑法第十條 法律ニ定メタル刑ハ訴訟關係人ニ對シ盡クスヘキ返還賠償ノ妨礙ト爲ルコトナク必ス之ヲ言渡スヘシ〔刑〕五以下〔治〕一以下〔民〕六一以下六、三、五、八、三、六、六、

同第五十一條 贓物ヲ返還スヘキ場合ニ於テ被害者ヨリ尙ホ損害ノ賠償ヲ要ムルトキハ犯人ハ賠償スヘキノ言渡ヲ受クヘシ其額ハ別ニ法律ニ之ヲ定メサルトキハ院又ハ裁判所ノ評定ニ任ス院又ハ裁判所ニ於テハ被害者ノ承諾アリト雖モ其金額ヲ他事ニ施用スルノ言渡ヲ爲スヘカラス〔刑〕五、二、五、四、一以下六、三、五、八、以下、三、六、六、

第四十七條

數人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共

犯人ヲシテ之ヲ連帶セシム

○本條ハ裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシムヘキ旨ヲ定ム

連帶トハ佛朗西ニ之ヲ「ソリダリテ」トイフ連帶ニ二種アリ一ハ權利者ノ連帶ニシテ一ハ義務者ノ連帶ナリ本條ハ連帶ノ義務ヲ定ムルモノナレハ左ニ少ク此點ヲ辨解セン

連帶ノ義務トハ一種ノ保証方法ナリ佛民法第千二百條ニ其何タルヲ定メタリ曰ク義務ヲ行フヘキ數人同一ノ義務ヲ負ヒ其數人中ノ各人義務ノ全部ヲ行フヘキノ訴ヲ受クヘシ且其數人中ノ一人義務ノ全部ヲ行フニ於テハ他ノ義務者其權利者ニ對シ義務ヲ免カル、トキハ其

義務ヲ行フヘキ者ニ連帶アリトスト故ニ連帶ノ義務ニハ必ス左ノ二條件ヲ必要トス第一義務者數人中ニテ各人義務ノ全部ニ付キ其責ニ任スル事第二一人其義務ヲ盡シタルトキハ各人其義務ヲ免カル、事是レナリ然レトモ此二條件タル分ツヘカラサルノ義務ニモ亦必要ナルモノナレハ連帶ノ義務ト分ツヘカラサルノ義務トチ區別センカ爲メ連帶ノ義務ハ其性質分ツヘキモノナリトノ一事ヲ以テセハ幾クハ完全ノ解タラン右ノ如ク連帶ノ義務者ハ分身一體相互ニ代理ヲ爲スモノナレハ其權利者ノ爲メ左ノ數箇ノ利益ヲ生ス第一權利者ハ連帶ノ義務者中己レノ欲スル所ノ者ヲシテ義務ノ全部ヲ行ハシムルヲ得ル事第二權利者ハ連帶ノ義務

者ノ一人ヲ訴ヘタル後更ニ他ノ義務者ヲ訴ヘ又ハ義務者總員ヲ同時ニ訴フルヲ得ル事第三權利者連帶義務者中ノ一人ニ對シ訴訟其他法律上效力ヲ有スヘキ處置ヲ爲シタルトキハ他ノ義務者ニ對シテモ亦其效ヲ生スル事第四連帶義務者中ノ一人ニ過失怠慢アルトキハ他ノ義務者モ亦其責ニ任スル事等即チ是レナリ故ニ連帶ノ義務ハ權利者ニ在テハ尤モ重大ナル保証ノ一ナリトス凡ソ連帶ノ義務ハ常ニ契約ニ原因スルモノナリト雖モ時アリテカ法律ニ原因スルコトアリ本條ノ場合ノ如キ即チ是レナリ法律ニ於テ共犯人ニ裁判費用贓物ノ返還損害ノ賠償ヲ連帶セシムルモノハ是レ犯人ハ他ノ義務者ヨリモ其心

術惡ムヘク從テ其權利者ハ他ノ權利者ヨリモ充分ニ之ヲ保護セサルヘカラサレハ之ヲシテ義務ヲ連帶セシメ以テ權利者ニ充分ナル保証ヲ與ヘタルナリ

佛刑法第五十五條ニ於テハ共被告人ヲシテ裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ連帶セシムルノミナラス亦罰金ヲ連帶セシメタリ其罰金ヲ連帶セシムルハ果テ如何ナル理由ニ基ケル乎「ボワソナド」先生刑法草案註解ニ曰ク佛國刑法ノ如キハ連帶擔當ノ理ヲ推シテ之ヲ罰金ニ適行セリ(第五十五條)然ルニ其不正不理ナルヲハ諸人ノ已ニ知道スル所ナリ例ヘハコ、コ一法律アリ若シ一罪ノ爲メニ數人ヲ禁錮センニ其一人逃走シテ其刑ヲ受ケサル時ハ其同類ノ者ヲシテ自己ノ禁錮ヲ受ケ了リシ後ニ

其逃走セル者ニ代リテ禁錮ヲ受クヘシト云ハ、其不正ナルヲ論ヲ待タズ罰金連帶ノ法ノ如キモ豈ニ之ト異ナランヤト實ニ連帶ノ法ヲ罰金ニ適施スルハ全ク其理ニ背戻セルモノナリ

○佛刑法第五十五條 同一ノ重罪及ヒ輕罪ノ爲メ刑ニ處セラレタル數人ハ罰金、返還、賠償、費用ヲ連帶シテ擔當スヘシ [民]一ニ〇〇以下、

第四十八條

裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルヲ得若シ贓物犯人ノ手ニアル時ハ請求ナシト雖モ直チニ之ヲ被害者ニ還付ス

○本條ハ刑事裁判所ニ於テ裁判費用及ヒ要償ノ訴ヲ審判スルコト及ヒ贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ請求ナシト雖モ之ヲ被告者ニ還付スルコトヲ定ム

刑事裁判所ニ於テ私訴ヲ併セ審理スルコトハ治罪法第四條ニ定メタルモノニシテ第四十六條ニ於テ既ニ之ヲ詳説セリ又裁判費用ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之ヲ審判スルコトハ別ニ之カ解釋ヲ爲サスシテ自ラ明カナリ然レトモ公訴裁判費用ハ治罪法第三百七條ニ從ヒ裁判所ニ於テ職權ヲ以テ之ヲ審判スルヲ得ルモノナリ

本條若シ以下ハ之ヲ治罪法第二百七條ニ照スニ稍不明ナリ第一贓物犯人ノ手ニアルトキハ之ヲ差押ヘタルト否トヲ問ハス直チニ之ヲ被害者ニ還付スヘキ乎第二犯人ニアラサル者ノ手ヨリ贓物ヲ差押ヘタルトキハ如何スヘキ乎第三其物品應禁物ナルトキハ如何スヘキ乎此三點不明ナリ第一贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ實際必ス之ヲ差押フルモノナリ故ニ本條ニハ唯贓物犯人ノ手ニ在ルトキハ云々ト書シタルノミニシテ之ヲ差押ヘサルモ仍ホ直チニ之ヲ被害者ニ還付スヘシト命スルモノニ非ス若シ之ヲ差押ヘサルトキハ被害者ヨリ請求アルニ非サレハ之ヲ還付スルヲ得ス第二裁判所ニ於テ贓物ヲ差押ヘタルトキハ縱ヒ其犯人ノ手ニ在ルニ非スト雖モ治罪法第三百七條ニ從ヒ之ヲ被害者ニ還付セサルヘカラス然レトモ他人公商ニ由リ之ヲ買取シ又ハ交換シテ

得タルトキハ直チニ之ヲ被害者ニ還付スルヲ得ス第三  
其物品應禁物ナルトキハ之ヲ還付セス之ヲ沒収スルノ  
處分チナスヘキナリ

### 第五節 刑期計算

○本節凡テ四條刑期計算法ヲ定ム

#### 第四十九條

刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ  
一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ  
從フ

受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日ハ  
刑期ニ算入セス

一 本條ノ主旨

二 第一項ノ解

三 第二項ノ解

〔一〕〇本條ハ刑期計算法ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二

十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト

稱スルハ曆ニ從フヘキ旨ヲ定ム

マ日ハ二十四時ヲ以テス故ニ何日ノ刑ニ處スト言渡ス

モノハ二十四時ニ其刑ノ日數ヲ乘シテ以テ刑期ヲ得ヘ

シ然レトモ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算入シ放免ノ日

ハ刑期ニ算入セサルカ故ニ二十四時ヲ以テ一日ト爲ス

ノ法ハ實際其要アラサルナリ

又一月ト稱スルハ三十日ヲ以テス故ニ何月ノ刑ニ處ス  
ト言渡スモノハ三十日ニ其刑ノ月數ヲ乘シ以テ刑期ヲ  
得ヘシ一月ヲ三十日ト定メタルモノハ是レ月ニ因テハ  
二十八日ナルコトアリ二十九日ナルコトアリ又三十一  
日ナルコトアレハ曆ニ從フトキハ大ニ不公平ナル結果  
ヲ生スルノ憂アレハナリ

又一年ト稱スルハ曆ニ從フ故ニ何年ト言渡スモノハ總  
テ曆ニ從フ例ヘハ今年一月一日ニ刑ヲ受クレハ十二月  
三十一日ヲ以テ滿一年トス年ニハ三百六十五日ノモノ  
アリ或ハ三百六十六日ノモノアリ同ク一年ノ刑ニ處セ  
ラレタルモノニシテ或ハ一日ノ増減アリト雖モ是レ受  
者ヨリ之ヲ觀レハ僅々タル差異ニシテ法律ヨリ之ヲ

觀レハ大ナル簡便アリ故ニ寧ロ此簡便ヲ取リタルナ  
リ

(三)〇第二項 本項ハ受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス一日ニ算  
入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セサル旨ヲ定ム  
一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テスト定メタリト雖モ實  
際二十四時ヲ以テ之ヲ計算スルトキハ或ハ午前ニ放免  
シ或ハ午後ニ放免スル者アルニ至リ頗ル煩雜ヲ免カレ  
ス故ニ初日ハ刑期ニ算入シ放免ノ日ハ刑期ニ算入セス  
ト定メタリ  
或問テ曰ク受刑ノ初日トハ刑ヲ執行スルノ初日チイフ  
乎將タ刑期ヲ起算スルノ日ヲイフ乎ト曰ク受刑トハ刑  
ヲ受クルノ謂ナレハ受刑ノ初日トハ刑ヲ執行スルノ初

日ナリト雖モ吾カ刑法ニ於テハ第五十一條ニ從ヒ宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スルモノナレハ其起算ノ日ヲ以テ受刑ノ初日ト看做サ、ルヘカラス蓋シ犯人ハ宣告ノ日ヨリ刑ノ執行ヲ受ケタルモノト看做セハ執行ノ初日ヲ以テ受刑ノ初日ト爲スモ敢テ不都合アラサルナリ又最終ノ日ハ刑期ニ算入セストアルモ犯人ヲシテ最終ノ日全日其刑ヲ受ケシムルモノニ非ス監獄則第三十一條ニ從ヒ必ス午前十時前ニ之ヲ放免シ夜間之ヲシテ出獄セシメ其家ニ歸リ若クハ他ニ其寓居ヲ求ムルニ不便ヲ與フル如キコトヲセサルナリ

○佛刑法第四十條

第二十四條ニ全ヲ掲ク

同第四百六十五條

第二十八條ニ全ヲ掲ク

第五十條

刑ハ裁判確定シタル後ニ非サレハ之ヲ執行スルコトヲ

得ス〔治〕四五九、四六一、

○本條ハ何時ヨリ刑ヲ執行スヘキ乎ヲ定ムルモノニシテ治罪法第四百五十九條ト全ク其主旨ヲ同フス凡ソ裁判ハ言渡ノトキ既ニ確定シ原被ニ對シテ直チニ其效ヲ生スルト雖モ其確定動カスヘカラサルニ至ラサル間ハ或ハ其裁判解除セラル、コトアルヲ以テ之ヲ執行スルコトヲ得ス是レ刑ハ一旦之ヲ執行スルヤ更ニ償ニ復スルヲ得サレハナリ然レトモ刑ハ裁判確定スルヤ必スシモ直チニ執行セサルヘカラサルモノニ非ス死刑ノ如キハ裁判確定後檢察



官ヨリ一切ノ書類ヲ司法卿ニ送致シ司法卿ヨリ死刑ヲ執行スヘキノ命令アルニ非サレハ之ヲ執行セス又死刑ノ旨渡ヲ受ケタル婦女懐胎ナルトキハ分娩後一百日ヲ經ルニ非サレハ之ヲ執行セス又罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月科料ハ十日ヲ過クルニ非サレハ之ヲ執行セス故ニ本條ハ刑ハ裁判確定前之ヲ執行スルヲ得サル旨ヲ定ムルニ過キサルナリ

第五十一條

刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シタル者ハ左ノ例ニ從フ

- 一 犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナル時ハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ其上訴不當ナル時ハ後判宣

告ノ日ヨリ起算ス

- 二 檢察官ノ上訴ニ係ル者ハ其上訴正當ナルト否トヲ分タス前判宣告ノ日ヨリ起算ス

- 三 上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スルヲ得ス

一 本條ノ主旨

- 二 第一項ノ解○被告人上訴ノ願下ヲ爲シタルトキハ如何○主刑ト附加刑トニ付キ上訴ヲ爲シ其一正當ニシテ其一不當ナルトキハ如何

- 三 第二項ノ解○被告人ヨリ上訴ヲ爲シ檢察官ヨリ附帶ノ上訴ヲ爲シ又檢察官ヨリ上訴ヲ爲シ被告人ヨリ附帶ノ上訴ヲ爲シタルトキハ如何

四 第三項ノ解

五 剝奪公權停止及公權監視及ヒ禁治産ノ期限ハ何時ヨリ之ヲ起算スヘキ乎

〔二〕〇本條ハ刑期起算ノ點ヲ定ム

裁判ハ言渡ノ日既ニ確定シ原被ニ對シ直チニ其效ヲ生スルモノナリ故ニ刑ノ執行ハ其確定動カスヘカラサルニ至リシ後ニ非サレハ之ヲ爲スヘカラサルコト前條ニ定メタル如シト雖モ其刑期ハ裁判言渡ノ日ヨリ之ヲ起算スルモノナリ治罪法第三百六十四條第二項ニ曰ク被告入禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル時ハ當然保釋責付ヲ取消シタル者トス但上訴中更ニ保釋ヲ求ムルヲ得ト故ニ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者上訴ニ付キ保釋責

付セラレサル以上ハ言渡ノ日ヨリ直チニ勾留セララルモノナリ

〔三〕〇第一 刑期ハ宣告ノ日ヨリ之ヲ起算スト雖モ若シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ上訴ヲ爲シタルトキハ其上訴正當ナルトキトキト否ラサルトキトキ區別シ若シ上訴正當ナルトキハ前判宣告ノ日ヨリ起算シ其不當ナルトキハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス  
右ノ區別タル世間往々之ヲ非難スル者アリ曰ク上訴ノ正否ハ上訴ヲ受理セシ裁判所ノ判決ニ因リ之ヲ知ルヘシト雖モ上訴ヲ受理セシ裁判所ニ於テ正當ナリト爲セシモシモノ必スシモ正當ナルニ非ス其不當ナリト爲セシモノ必スシモ不當ナルニ非ス且縱ヒ上訴ヲ受理セシ裁判

所ニ於テ不當ナリト爲セシモノト雖モ本人ハ之ヲ正當  
 ナリトシテ爲セシモノナレハ本人ニ在テハ一點ノ惡意  
 ナシ然ルニ其上訴不當ナルトキ後判宣告ノ日ヨリ刑期  
 ナ起算スヘシト定メタルハ故ナク被告人ヲ害スルモノ  
 ト謂ツヘシト此說一應理アリ然レトモ余ハ本條ノ區別  
 ナ以テ敢テ不當ナリトセス左ニ其所以ヲ辨セン  
 抑上訴中被告人ノ身體ヲ拘束スルモノ之ヲ未決勾留ト  
 イフ決テ刑罰ニ非ス而シテ未決勾留トハ裁判言渡ノ前  
 後ヲ問ハス其未タ確定動カスヘカラサルニ至ラサル前  
 被告人ヲ勾留スルヲイフモノナレハ若シ上訴中ノ未決  
 勾留日數ヲ刑期ニ算入スヘシトセハ裁判言渡前ノ未決  
 勾留日數モ亦之ヲ刑期ニ算入セサルヘカラサルニ至ラ

ン何人ト雖モ裁判前ノ勾留日數ヲ刑期ニ算入スルヲ可  
 トスルモノナカルヘシ是レ之ヲ算入スヘシトセハ數月  
 ノ禁錮ニ處セラレタル者多クハ其刑ノ實決ヲ受ケスシ  
 テ放免セラレ、ニ至ルヘケレハナリ然ラハ或ル理由ア  
 ルトキハ上訴中ノ未決勾留日數ヲ刑期ニ算入セサルモ  
 決テ之ヲ不當トスルヲ得サルヘシ抑裁判ハ始審終審ヲ  
 問ハス法律上是非曲直ヲ斷定スルヲ得ヘキ能力ヲ具フ  
 ル裁判官ノ宣告スルモノナレハ故ナク之ニ對シ不服ヲ  
 唱フルヲ得ス又上訴ヲ受理スヘキ裁判所ハ萬一誤判ヲ  
 爲スコトナキニ非サルモ概シテ誤判ナキモノト看做サ  
 ルヘカラス若シ然ラスシテ其上訴正當ナルト否トナ  
 問ハス必ス前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘシトセハ

奸黠ノ徒ハ妄リニ上訴ヲ爲シ以テ定役ヲ免カレンコト  
 ヲ圖ルヲ怠ラサルヘシ故ニ上訴ノ不當ナルト否トニ因  
 リ或ハ前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算シ或ハ後判宣告ノ  
 日ヨリ之ヲ起算スルコト決テ不當ニ非サルナリ  
 ○或問テ曰ク若シ被告人上訴ヲ爲シ未タ判決アラサル  
 前願下ヲ爲シタルトキハ何時ヨリ其刑期ヲ起算スヘキ  
 乎ト曰ク本條第一ヨリ第三ニ至ルマテニ此點ヲ定メス  
 故ニ正則ニ從ヒ宣告ノ日即チ確定裁判ノ日ヨリ之ヲ起  
 算シ裁判言渡ヨリ上訴願下ニ至ルマテノ日數ハ之ヲ刑  
 期ニ算入セサルヘカラサルヘシ或ハ曰ハン此ノ如クス  
 ルトキハ徒ニ刑ヲ輕フセンガ爲メ上訴ヲ爲シ其願下ヲ  
 爲ス者往々之レアラフン且願下ハ其上訴ノ不利ナルヲ覺

ルカ故ニ爲スモノナレハ願下ヲ爲シタルハ恰モ上訴ヲ  
 受理セシ裁判所ニ於テ之ヲ不當ナリト爲セシニ異ナラ  
 サレハ被告人上訴ノ願下ヲ爲シタルトキハ其願下ノ日  
 ヨリ刑期ヲ起算スヘシト實際或ハ此ノ如キ弊アラフン故  
 ニ法律ヲ以テ願下ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘシト定ムル  
 ハ格別解釋上此ノ如クスルヲ得サルヘシ何トナレハ本  
 條ニ刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ之ヲ起算スルトノ本則ヲ  
 定メ而シテ第一第二第三ニ上訴ヲ爲シタルトキノ特例  
 ヲ定メタレハ若シ其特例アルモノハ格別特例ナキモノ  
 ハ必ス本則ニ依ラサルヘカラサレハナリ然ルニ明治十  
 五年十月十八日附司法省ヨリ各裁判所ヘノ内訓ニ曰ク  
 刑事上告人ヨリ上告取消ノ願書ヲ差出シタル節其上告

書類下戻方ノ儀ニ付キ大審院長玉乃世履ヨリ別紙甲號ノ通伺出候處乙號ノ通指令及候條爲心得此旨及内訓候也(甲號)伺(九月五日)第一條刑事ノ裁判言渡ヲ受ケタル被告入其言渡ニ對シ上告ヲナシタルニ付當院檢事長ヨリ刑事局ノ簿冊ニ登記ヲ求ムルト同時ニ右原告人ヨリ差出シタル上告取消ノ願書ヲ添へ大審院長ニ送致ノ場合ニ於テハ右上告取消ノ願書ハ大審院長宛ニ致シ有之共右願書ハ大審院長へ差廻ヌニ不及當院檢事長手限ニテ聞届上告書類ハ當院檢事長ヨリ下戻シ可然哉、第二條、前條同様被告人ノ上告ヲ當院檢事長ヨリ刑事局簿冊ニ登記ヲ求メ一件書類已ニ大審院長へ送附コナリタル後被告入ヨリ其上告取消ノ願書ヲ差出シタル節ハ大審院長

之ヲ聞届上告書類下戻シ可然哉右相伺候至急御指令ヲ仰キ候也(乙號)指令伺ノ通刑期ハ上告取消願聞届ノ日ヨリ起算スル儀ト心得ヘシト又同年十月二十八日附司法省ヨリ大審院裁判所警視廳府縣へノ内訓ニ曰ク上告趣意書ヲ差出シタル後五日ニ其取消ヲ願出ツル者刑期起算方ノ儀ニ付長崎縣令内海忠勝ヨリ別紙甲號ノ通伺出候處乙號ノ通指令及候條爲心得此旨及内訓候也(甲號)伺(十月十六日)上告書類趣意書差出シ後其期限五日内ニ取消ヲ願フ時期限ハ宣告ノ日ヨリ起算スヘキヤ御指令ヲ乞フ(乙號)指令(十月二十六日)本月十六日附電信伺ノ件被告人上告ヲ爲シタル場合ニ於テ上告書類未タ大審院ニ送致セサル前其願下ヲ申出タルキハ原裁判所長之

レヲ聞届ノ日ヨリ刑期ヲ起算スト此内訓ニ依レハ上訴  
 ノ願下ヲ爲シタルトキハ刑名宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算  
 セス又願下ノ日ヨリ之ヲ起算セス願下ヲ聞届ケタル日  
 ヨリ之ヲ起算スルモノナリ余思フニ此ノ如ク裁判所ノ  
 處分ニ關スルノミニ非スシテ一般人民ノ權利ニ關スル  
 モノハ必ス布告ヲ以テ定メサルヘカラサルヘシ且布告  
 ヲ以テ之ヲ定ムルニ於テハ願下ヲ聞届ケタル日ヨリ刑  
 期ヲ起算セスシテ願下ヲ爲シタル日ヨリ之ヲ起算スヘ  
 シト爲サハ允當ナラン是レ願下ヲ爲スハ本人ノ隨意ニ  
 シテ裁判所ニ之ヲ許否スルノ權アルモノニ非サレハナ  
 リ

○或問テ曰ク主刑ト附加刑トニ付キ上訴ヲ爲シ其一正

當コシテ其一不當ナルトキハ如何スヘキ乎ト宮城氏法律  
 義講曰ク附加刑ハ固ヨリ主ニ附属スルモノナレハ從ハ則  
 チ主ニ從ヒ總テ其上訴ノ正否ニ拘ハラズ主刑ニ從テ其  
 刑期起算ノ點ヲ定ムヘキナリ故ニ剝奪公權停止公權禁  
 治産ハ其主刑ヲ起算スルキヨリ之ヲ起算スヘキナリ且  
 ツ主刑ノミニ就キ上訴シ又ハ附加刑ノミニ係リテ上訴  
 シタルキモ亦同様ナリトス又監視ハ常ニ第四十條ニ據  
 リ主刑ノ終リタル日ヨリ起算スヘキナリ又主刑ヲ免シ  
 テ止メ監視ニ付シタルキモ亦常ニ其裁判確定ノ日ヨリ  
 起算シテ第五十一條ノ例ニ據ルコトナシ是レ第四十條ニ  
 故ラニ其裁判確定ノ日ヨリ起算ストアル所以ナリ云々  
 ト余以爲ラシ附加刑ハ獨立スルヲ得ス常ニ主刑ニ附從

スルモノナリト雖モ此理ヲ推シテ本件ヲ説クヲ得サル  
 ヘシ抑主刑ニ關スル上訴ノミ正當ナルト附加刑ニ關ス  
 ル上訴ノミ正當ナルトニ拘ハラヌ上訴正當ナルトキハ  
 必ス前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算スヘシ是レ主刑ニ關  
 スルト附加刑ニ關スルトヲ問ハヌ上訴ハ裁判言渡ニ對  
 スルモノナレハ其一正當ナルトキハ之カ爲メ裁判言渡  
 ノ執行ヲ停止スルコト敢テ不當ニ非サレハ其刑期ハ必  
 ス前判宣告ノ日ヨリ之ヲ起算スヘキナリ

〔三〕〇第二 檢察官ヨリ上訴ヲ爲シタルトキハ其上訴ノ當  
 否ニ拘ハラヌ常ニ前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算ス何ト  
 ナレハ其上訴正當ナルトキハ其過ヲ裁判官ニ在リ其上  
 訴不當ナルトキハ其過ヲ檢察官ニ在リ一モ被告人ノ預

リ知ラサル所ナレハ其當否ニ因リ被告人ニ損害ヲ被ラ  
 シムルノ理アラサレハナリ

或問テ曰ク被告人控訴ヲ爲シテ勝ヲ得檢察官更ニ其言  
 渡ニ對シ上告シタルトキハ何レノ日ヨリ刑期ヲ起算ス  
 ヘキ乎ト曰ク此場合ニ於テハ始審裁判所ノ言渡ノ日ヨ  
 リ之ヲ起算スヘキナリ何トナレハ控訴ハ被告人勝ヲ得  
 タルヲ以テ前判宣告ノ日ヨリ刑期ヲ起算セサルヘカラ  
 ス又上告ハ其當否ヲ論セス檢察官ノ爲セシモノナレハ  
 之カ爲メ被告人ニ損害ヲ被ラシムルノ理アラサレハナ  
 リ

〇或問テ曰ク被告人ヨリ上訴ヲ爲シ檢察官ヨリ附帶ノ  
 上訴ヲ爲シ又ハ檢察官ヨリ上訴ヲ爲シ被告人ヨリ附帶

ノ上訴ヲ爲シタルトキハ如何スヘキ乎ト曰ク明治十六年十一月十日司法省ヨリ茨城縣ヘノ指令ニ依ルトキハ被告人主タル上告ヲ爲シ檢察官上告期限内ニ附帶ノ上告ヲ爲シタル場合ニ於テハ常ニ前判宣告ノ日ヨリ起算シ否ラサル場合ニ於テハ主タル上告ノ當否ニ因リ或ハ前判宣告ノ日ヨリ起算シ或ハ後判宣告ノ日ヨリ起算スルモノナリ其伺及ヒ指令ニ曰ク(伺)刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲シタル後檢察官ヨリモ又附帶ノ上告ヲナシタリ然ニ大審院ニ於テハ二者ノ上告棄却シタリ右刑期ハ原裁判言渡ノ日ヨリ起算シ可然哉法律ニ正條ナキヲ以テ此段相伺候也(指令)伺ノ趣後判宣告ノ日ヨリ起算スヘシ但上告期限内檢察官ヨリ上告シタルモノニ係ル時

ハ前判宣告ノ日ヨリ起算スル儀ト心得ヘシト此指令タル能ク其當ヲ得タリト信ス何トナレハ上訴期限内ハ主タル上告ニ附帶セサルモ仍ホ上訴スルヲ得ルモノナレハ檢察官其期限内ニ上訴ヲ爲シタルトキハ被告人ノ上訴ヲ爲スト否トニ拘ハラズ其裁判執行ヲ停止セラレ否ラサル場合ニ於テハ檢察官ヨリ附帶ノ上訴ヲ爲スト否トニ拘ハラズ被告人ノ上訴ノ爲メ其執行ヲ停止セラレ、モノナレハナリ又第二ノ場合ニ於テハ無論本條第二ノ規則ニ從ハサルヘカラス何トナレハ被告人ヨリ附帶ノ上訴ヲ爲シタルト否トニ拘ハラズ又上訴期限内ニ之ヲ爲シタルト否トニ論ナク檢察官ノ上訴ニ因リ裁判ノ執行ヲ停止シタルモノナレハナリ



〔四〕〇第三 右ノ如ク或ハ上訴中ノ日數ヲ刑期ニ算入スルコトアリト雖モ若シ被告人上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタルトキハ其日數ヲ刑期ニ算入セス是レ犯人其身體ヲ拘束セラル、コトナキヲ以テナリ

被告人保釋責付ヲ得タル場合ニ於テハ多クハ實地刑ヲ執行スル日ヨリ刑期ヲ起算スト雖モ若シ保釋責付ノ前後ニ於テ勾留ヲ受ケタル者ハ其日數ヲ刑期ニ算入スヘキナリ

〔五〕〇或問テ曰ク監視禁治産剝奪公權及ヒ停止公權ノ期限ハ何時ヨリ之ヲ起算スヘキ乎ト曰ク剝奪停止公權及ヒ禁治産ハ其主刑ヲ起算スル日ヨリ之ヲ起算スヘシ然レトモ裁判確定後ニ非サレハ其效ヲ生セス是レ裁判確定

前ハ其刑未タ動カスヘカラサルモノニ非サレハ犯人公權ヲ行フモ更ニ責ムヘキナク刑期ハ既往ニ溯リテ其起算ノ點ヲ定ムルモ剝奪公權停止公權及ヒ禁治産ハ既往ニ溯リテ之ヲ行フヲ得サレハナリ又監視ニ付テハ明治十六年三月二十九日司法省書記官ヨリ大審院裁判所府縣へ左ノ如ク通牒セリ曰ク監視日數起算方ノ儀ニ付キ別紙甲號ノ通牒總監樺山資紀ヨリ伺出乙號ノ通御指令相成候間爲御心得及御通牒候也(甲號)伺文畧ス(乙號)指令(三月二十七日)伺ノ趣勾留中ノ日數ヲ主刑期限ニ算入スヘキ場合ハ附加刑ナル監視ノ期限モ亦算入スル儀ト心得ヘシ但本文ニ牴觸スル指令内訓ハ取消候事ト此指令タル能ク第四十條第一項ニ適スルモノナリ故ニ上訴

中主刑満限ニ爲リタルトキハ其日ヨリ直チニ監視ノ期限ヲ起算スヘシ然レトモ主刑ヲ免シテ止マ監視ニ付シタル場合ニ於テハ第四十條第二項ニ從ヒ必ス裁判確定ノ日ヨリ之ヲ起算スヘシ

○佛刑法第二十三條 有期刑ノ期限ハ其裁判動カスヘカラサルニ至リシ日ヨリ之ヲ起算スヘシ〔刑〕二四、二六、

同第二十四條 然レトモ未決勾留セラレタル者ニ禁錮ノ刑ヲ言渡シタル場合ニ於テ其刑期ハ若シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ上訴ヲ爲サ、ルトキハ檢察官ヨリ控訴上告ヲ爲シ其結果ノ如何ニ拘ハラス裁判言渡ノ日ヨリ之ヲ起算スヘシ  
刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ控訴上告ヲ爲シ其刑ヲ

減セラレタルトキ亦同シ〔刑〕二二、

### 第五十二條

刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタル者ハ其逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス

○本條ハ刑期限内逃走シ再ヒ捕ニ就キタルトキノ刑期計算法ヲ定ム

刑期限内逃走シ期満免除ノ期限ヲ經過シタルトキハ格別其以前ニ捕ニ就キタルトキハ逃走ノ日數ヲ除キ前後受刑ノ日ヲ計算ス是レ逃走中ハ刑ヲ受ケサルモノナレハ其日數ヲ刑期ニ算入スルノ理アラサレハナリ  
刑期限内トハ受刑中ノミチイフモノニ非ス刑期ノ起點ヨリ其満限マテチイフ故ニ上訴期限内即チ裁判未タ確

定動カスヘカラサルニ至ラサル前ト雖モ其日數ヲ刑期ニ起算スル場合ニ於テハ仍ホ之ヲ刑期限内トイフヘキナリ

或問テ曰ク逃走ノ當日ト就捕ノ當日トハ之ヲ刑期ニ算入スヘキ乎ト曰ク本條ニハ之カ明文ナシ然レトモ余ハ之ヲ刑期ニ算入スルヲ可トス是レ一時間タリトモ故テク刑ヲ加フルノ理アラサレハナリ「ボウソナド」先生刑法草案註解ニ曰ク犯人逃走シテ再ヒ縛ニ就ク事アラシ其逃走シテ刑ヲ受ケサル日ヲ以テ犯人ノ利益トスルヲ得サルハ論ヲ待タス然レトモ時刻ヲ計算スルコトナキ原則タルヲ以テ逃走ノ日ト就縛ノ日ヲ全日ニ計算セサルヲ得スト立法官ノ意蓋シ之ヲ刑期ニ算入スルニ在リ

或又問テ曰ク監視ヲ遁カレタル者ニ付テハ別ニ規則ナシ抑監視ニ付テハ之ヲ遁レタル間ノ日數モ亦之ヲ刑期ニ起算スヘキ乎ト宮城氏講法曰ク監視ノ刑ヲ遁レタル者ヲシテ其遁レタル日數モ亦監視ノ日數ニ算入スルコトヲ得セシメハ監視ノ刑ハ有名無實徒法ニ屬スヘキナリ監視ノ執行ヲ遁レ其規則ニ背キタル者ハ第百五十五條ノ問フ所ナリ而シテ其罪ヲ犯シタル者モ亦本條ニ循ヒ其遁レタル日數ハ之ヲ除キ前後受刑ノ日ノミヲ通算スヘキナリト實ニ監視モ亦不斷執行スヘキモノナレハ若シ監視ヲ遁レタル者アルトキハ其日數ハ之ヲ刑期ニ算入スヘカラサルナリ

## 第六節 假出獄

○本節凡テ五條假出獄ニ關スル規則ヲ定ム  
 假出獄ハ免幽閉ト同ク一種ノ恩典ニシテ犯人ヲシテ過  
 ナ改メ善ニ遷ラシムルノ一方法ナリ龜山貞義氏曰ク假  
 出獄トハ何ソヤ囚徒能ク獄則チ遵守シ真心悔悟ノ狀ア  
 ルトキ之ヲシテ假ニ出獄セシメ以テ眞ニ懲戒ノ效ヲ奏  
 シタルヤ否ヤヲ試ムルモノナリ故ニ苟モ此制ノ設アラ  
 ハ囚徒タル者自由ヲ熟望スルノ餘相競フテ善ニ化セシ  
 コトヲ勉メ小心謹慎獄則ニ觸レサルノ利アリ加之能ク  
 囚徒ヲシテ他日良民ニ齒セシムルノ益アリ佛國刑事統  
 計表ニ據ルニ再三犯ニ及フノ徒多クハ放免ノ後二年內  
 ニ於テス而シテ其理由ヲ釋ヌルニ第一業ニ就クノ難第

ニ資金ノ缺乏第三恒心ヲ失フ第四監察ヲ加ヘス犯人ニ  
 畏懼心ナキ是レナリ然ルニ今假出獄ヲ行フハ則チ懲戒  
 シタルノ公証ヲ與フルニ外ナラサルヲ以テ他人之ヲ擯  
 斥セスシテ業ニ就カシメ遂ニ資金ノ缺乏ヲ告グルニ至  
 ラシメス既ニ恒産アレハ必ス恒心生シ且終始警察官吏  
 ニ於テ監察ヲ加ヘ萬一其不良ノ行アレハ直チニ拘致シ  
 テ餘剩ノ刑ニ復セシム之ヲ以テ漸ク罪惡ノ罪惡タルヲ  
 知リ遂ニ不知不識化シテ眞ノ良民タルヲ得セシムルニ  
 至ル其利益豈僅少ナランヤ假出獄ノ制ハ獨リ囚徒ヲ善  
 道ニ誘導シ良民ニ齒セシメ以テ其再三犯ニ及フヲ豫防  
 スルノ利アルノミナラス亦大ニ獄費ヲ減省スルノ益アリ  
 今假ニ三府三十五縣ニ於テ毎歲重罪ノ刑(懲役五年以

上終身ニ至ル)ニ處セラル、者一千名輕罪ノ刑(懲役五年以下)ニ處セラル、者六千名ト看倣シ而シテ重罪囚ノ服役年間平均七年トスルトキハ一千名ニテ二百五十五萬五千日又輕罪囚ノ服役年間平均一年トスルトキハ六千名ニテ二百十九萬日合計四百七十四萬五千日囚徒一日ノ費用衣服飲食料ヲ合シ五錢トスルモ二十三萬七千二百五十圓ノ巨額ニ至ル豈僅少ナリトセシヤ然ルニ輕重罪ノ囚徒其刑期ノ半ニ至リ改良ノ徵アル者百名中僅ニ十名トスルモ假ニ其出獄ヲ許スニ於テハ每歲一萬千八百餘圓ノ獄費ヲ減セン況シヤ全國ノ刑囚各年七千名ノ上ニ出テ又懲戒ノ效ヲ奏シ以テ假出獄ノ寬宥ヲ受クヘキ者百分ノ十ニ止マラサルニ於テチヤ云々ト實ニ假出

獄ハ善ヲ極メ美ヲ盡シタル制ト謂フヘキナリ

第五十三條

重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後行政ノ處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得  
無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後亦同シ  
流刑ノ囚ハ第二十一條ニ照シ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒス

- 一 本條ノ主旨
- 二 第一項ノ解
- 三 第二項ノ解
- 四 第三項ノ解

〔一〕〇本條ハ假出獄ヲ許スヲ得ル場合ヲ定ム

〔二〕〇第一項 本項ハ重罪輕罪ノ有期刑ニ處セラレタル者ハ何年ノ後如何ナル場合ニ於テ假出獄ヲ許スヲ得ル乎ヲ定ム

假出獄ハ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ通シ用フルモノナリト雖モ之ヲ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ適用セス是レ違警罪ノ拘留ハ長キモ十五日ニ過キサレハ其囚ニ假出獄ヲ許スノ要ナケレハナリ

又假出獄ハ囚人獄則ヲ謹守シ悔改ノ狀アルトキ行政ノ處分ヲ以テ許スモノナレハ囚人ニ必スシモ此恩典ヲ受クルノ權利アルモノニ非ス若シ假出獄ヲ許スヘキ者アルトキハ刑法附則第三十八條ニ從ヒ獄司ヨリ其犯人ノ

行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレンコトヲ内務司法兩卿ニ上申シ許可ヲ得然ル後同則第三十九條ニ從ヒ獄司ヨリ其証票ヲ犯人ニ下附スヘキナリ

刑法附則第四十條ニ曰ク假出獄証票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ一本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日ニ殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事三假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事四假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事ト又假出獄ヲ許ストキ犯人ニ下付スヘキ宣告狀書式ハ明治十五年四月四日附内務省番外達ヲ以テ之ヲ定メタリ

又假出獄ハ有期ノ刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後ニ非サ

レハ之ヲ許サス何トナレハ人ノ心事ハ容易ニ之ヲ知得  
スルヲ得ス囚人果テ改良セシカ若クハ自由ヲ欲スルノ  
極偽リテ悔悟ノ狀ヲ爲セシカ之ヲ判スルハ困難中ノ尤  
モ困難ナルモノナレハ刑期<sup>四</sup>分ノ三ノ期限間嚴ニ其動  
靜坐臥ヲ試察シ然ル後ニ非サレハ容易ニ之ヲ許スヘカ  
ヲサレハナリ

(三)〇第二項 本項ハ無期徒刑ノ四ハ十五年ヲ經過スル後

亦同シキ旨ヲ定ム

有期ノ刑ニ付テハ其刑期<sup>五</sup>分ノ三ヲ經過スルノ後假出  
獄ヲ許スト雖モ無期徒刑ニ付テハ十五年ヲ經過スルニ  
非サレハ之ヲ許サス然レトモ十五年ニ三ヲ乘スルトキ  
ハ四十五年ト爲ルヲ以テ此期限タル少ク長キニ失スル

若

若

アハ

ハ

ノ嫌アラシ抑十五年ヲ以テ假出獄ノ期限ト爲ストキハ  
無期刑ハ平均之ヲ四十五年ナリト看做サ、ルヘカラス  
今人生ヲ六十年ト看做サンニ十五年ノ期限タル十五歳  
ニシテ罪ヲ犯セシ者ニハ相當ナルヘキモ十五歳以上ノ  
者ニ對シテハ嚴ニ失スヘシ況ヤ假出獄ノ期限ハ之ヲ經  
過スルヤ必スシモ直チニ假出獄ヲ許サ、ルヘカラサル  
モノニ非ス之ヲ許スト否トハ全ク行政ノ處分ニ屬スレ  
ハ其期限ヲ減縮スルモ敢テ不都合アラサルナリ故ニ余  
ハ其期限ヲ減シテ七年若クハ十年ト爲サレンコトヲ希  
望ス何トナレハ有期徒刑ノ長期ハ十五年ニシテ其假出  
獄ノ期限ハ五年ナレハ無期徒刑ニ付テハ七年若クハ十  
年ノ期限ヲ設クルヲ以テ至當ト爲セハナリ

〔四〕○第三項 本項ハ流刑ノ囚ハ幽閉ヲ免スルノ外假出獄ノ例ヲ用ヒサル旨ヲ定ム

流刑ノ囚ハ第二十一條ニ從ヒ無期ハ五年ノ後有期ハ三年ノ後行政ノ處分ヲ以テ幽閉ヲ免スルヲ得ルモノナレハ之カ爲メ別ニ假出獄ノ例ヲ用ヒサルナリ

### 第五十四條

徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サル、ト雖モ仍ホ島地ニ居住セシム

○本條ハ徒刑ノ囚ハ假出獄ヲ許サル、ト雖モ其内地ニ歸リ來ルヲ得サル旨ヲ定ム

假出獄ヲ許サレタル者ハ刑法附則第四十二條明治四十五年以テ號改正スニ依リ豫メ其住所ヲ定メシメ出獄ノ日典獄

ヨリ其証票ノ謄本ヲ添へ附則第二十二條ノ例ニ依リ犯人ヲ護送シ特別監視ヲ執行セシムルモノナリ故ニ懲役以下ノ囚ハ其住所其他ノ場所ニ居住スルヲ得ルモ徒刑ノ囚ハ其内地ニ歸リ來ルヲ許サス島地ニ於テ其住所ヲ定メシム何トナレハ假出獄ヲ許サレタル者重罪輕罪ヲ犯ストキハ直チニ之ヲ停止シ其本刑ヲ執行スルモノナレハ其出獄中内地ニ歸リ來ルヲ許スニ於テハ更ニ之ヲ嶋地ニ護送スルノ煩アレハナリ  
監獄則第六十一條及ヒ第六十二條ニ依ルニ假出獄ヲ許サレタル徒刑ノ囚其地ニ居住スヘキ家ナキトキハ屋舎ヲ貸與シ又配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キ同居セント請フトキハ典獄將來營生ノ方法ヲ取糺シ之ヲ許否スヘク



又嫁娶ヲ爲サントスルトキハ監署ニ申告セシメ典獄之ヲ許否スヘキナリ

第五十五條

假出獄ヲ許サレタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得但本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

○本條ハ假出獄ヲ許サレタル者ハ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得ルコト及ヒ犯人ヲ特別監視ニ付スルコトヲ定ム  
假出獄ヲ許サレタル者ハ免幽閉ノ場合ト同ク自活ノ途ヲ求メサルヘカラス故ニ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得ルモノナリ刑法附則第四十一條ニ曰ク重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自ラ財産ヲ治メ

若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受クヘシト治産ノ禁ハ曩ニ第三十六條ニ於テ開説セシ如ク内務司法兩卿ニ於テ之ヲ免スルモノナリト雖モ之ヲ免スルニ方リ一々囚人ノ行フヲ得ヘキコト、否ラサルコト、ヲ區別スル能ハス故ニ一旦治産ノ禁ノ幾分ヲ免シタル以上ハ其地ノ警察所ヲシテ實際上其行フヲ得ヘキコト、否ラサルコト、ヲ判別セシムルモノナリ  
右ノ如ク重罪輕罪ノ囚ニハ假出獄ヲ許スコトアリト雖モ而モ囚人ヲシテ其自由ヲ全受セシメス其期限内特別ニ定メタル監視ニ付スルモノナリ  
刑法附則ニ特別監視ニ關スル規則ヲ定メタリ左ニ其全文ヲ掲ク

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條ノ例ヲ適用ス

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間

左ノ條件ヲ遵守ス可シ

- 一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ
- 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス
- 三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所

ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ許サス

四 往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルコトヲ許サス

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

### 第五十六條

假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入スルコトヲ得ス

○本條ハ假出獄ヲ許サレタル者重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ直チニ出獄ヲ停止スヘキ旨ヲ定ム

假出獄ハ囚人悔改ノ狀現アルトキ行政ノ處分ヲ以テ之ヲ許スモノナリ故ニ出獄中重罪輕罪ヲ犯ス者ハ直チニ

其出獄ヲ停止シ且出獄中ノ日數ハ之ヲ刑期ニ算入セサルナリ

本條ニ付テハ少シ異論アリ第一本條ニハ重罪輕罪云々トアリ故ニ罰金ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯セル者ト雖モ仍ホ假出獄ノ恩典ヲ失フモノナリ此法少ク其當ヲ失セルカ如シ何トナレハ過誤失錯ノ罪ハ其公益ヲ害スルカ故ニ之ヲ罰スルモ犯人ノ心術ニ至テハ更ニ尤ムヘキモナシ故ニ囚人假出獄中過誤失錯ノ罪ヲ犯スモ之カ爲メ其出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入スルヲ禁スルノ理アラサレハナリ抑假出獄ヲ許サレタル者其惡習ヲ改メス尙ホ有意罪ヲ犯ストキハ其出獄ヲ停止スル可ナリト雖モ無意犯ハ篤實廉直ノ者ト雖モ猶ホ之レナキ

ヲ免カレス然ルニ無意犯ノ爲メ出獄ヲ停止スルハ全ク其理ニ反スヘシ第二本條ニハ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入スルヲ得ストアリ是モ亦其當ヲ失スルカ如シ抑刑法ニハ再犯加重ノ法アリ一罪ヲ犯シ判決ヲ經テ再ヒ罪ヲ犯ストキハ其刑ヲ加重ス然ルニ假出獄中罪ヲ犯セシ者ニハ再犯加重ノ例ニ依ルノ外尙ホ之ニ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサルノ一種特別ナル刑ヲ科ス豈能ク其權衡ヲ得タルモノトイフヘケンヤ凡ソ囚人ハ假出獄中ト雖モ其自由ヲ全受スルモノニ非ス徒刑ノ囚ハ内地ニ歸リ來ルヲ得ス其他ノ囚ト雖モ假出獄中ハ全然治産ノ權ヲ行フヲ得ス且特ニ嚴格ナル監視ニ付セラル、モノナレハ其日數ヲ刑期ニ算入セサルハ假出獄ヲ許サレタル日

ヨリ罪ヲ犯スニ至ルマテノ日數ノ多少ニ因リ或ハ重ク  
 或ハ輕ク均一平等ノ性質ヲ闕ク一種特別ノ刑ナリトス  
 刑法草案第六十七條ニ曰ク假出獄中更ニ實決ノ刑ニ該  
 ル重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直ニ出獄ノ效ヲ失ヒ前犯  
 後犯ノ刑期間再ヒ出獄ヲ許サスト余ハ立法官ニ於テ本  
 條ヲ草案ノ如ク改正セラレンコトヲ希望スルモノナリ  
 本條ニ從ヒ假出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セサルモ其犯  
 罪ノ日ハ時間ヲ論セス必ス之ヲ一日ニ算スヘキナリ  
 ○或問テ曰ク假出獄ヲ許サレタル者ハ重罪輕罪ヲ犯ス  
 ノ外其出獄ヲ停止セラル、コトナキ乎ト曰ク假出獄ハ  
 行政ノ處分ナレハ囚人縱ヒ重罪輕罪ヲ犯サ、ルモ其出  
 獄ヲ許スヘカラサルモノト認ムルトキハ何時タリトモ

之ヲ停止スルヲ得ヘシ唯其本條ノ場合ト異ナルモノハ  
 本條ノ場合ニ於テハ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セス行  
 政上之ヲ停止スル場合ニ於テハ之ヲ刑期ニ算入スルモ  
 ノナリ

### 第五十七條

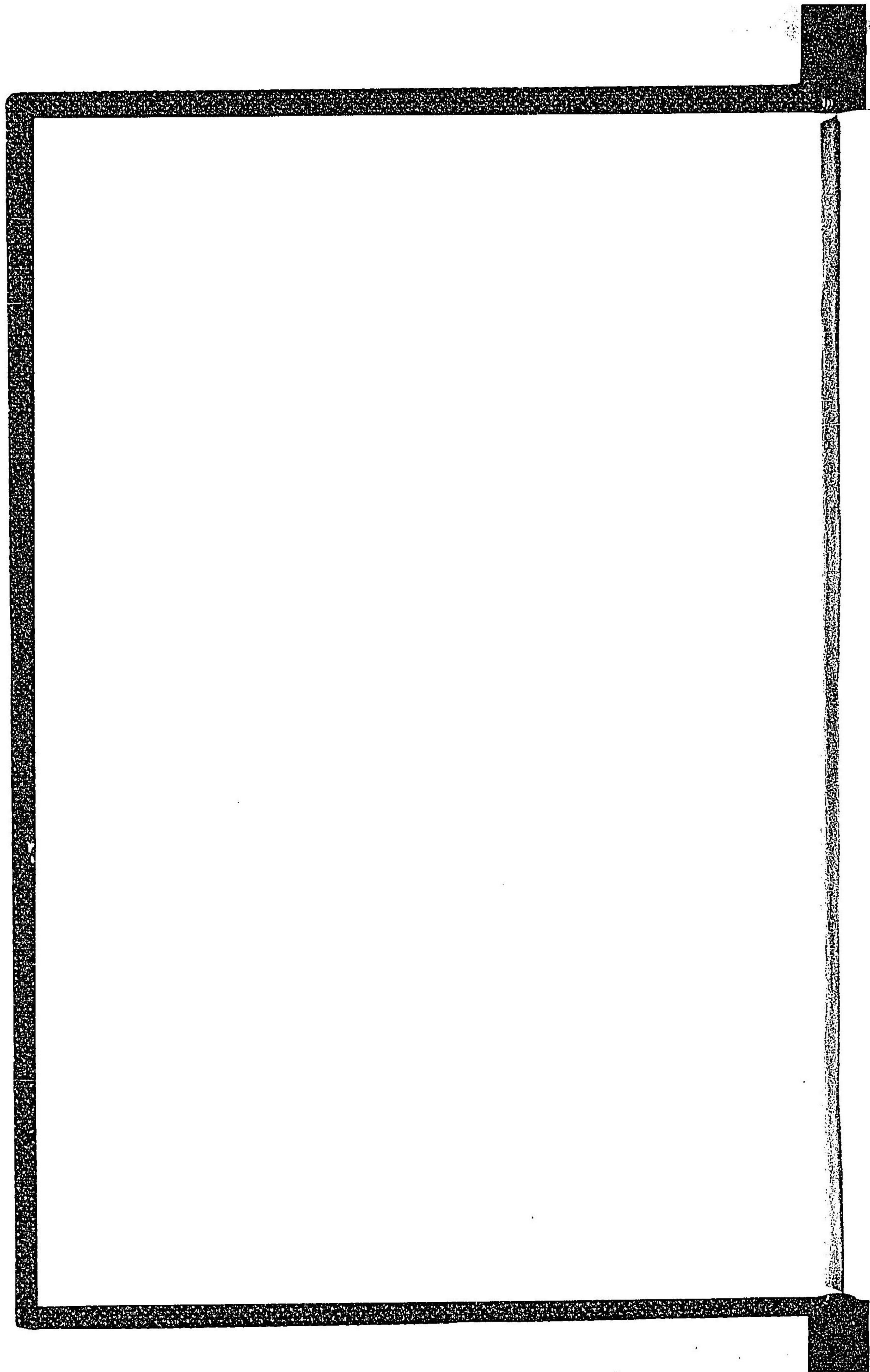
刑期限内更ニ重罪輕罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サ  
 ス〔刑〕五六、

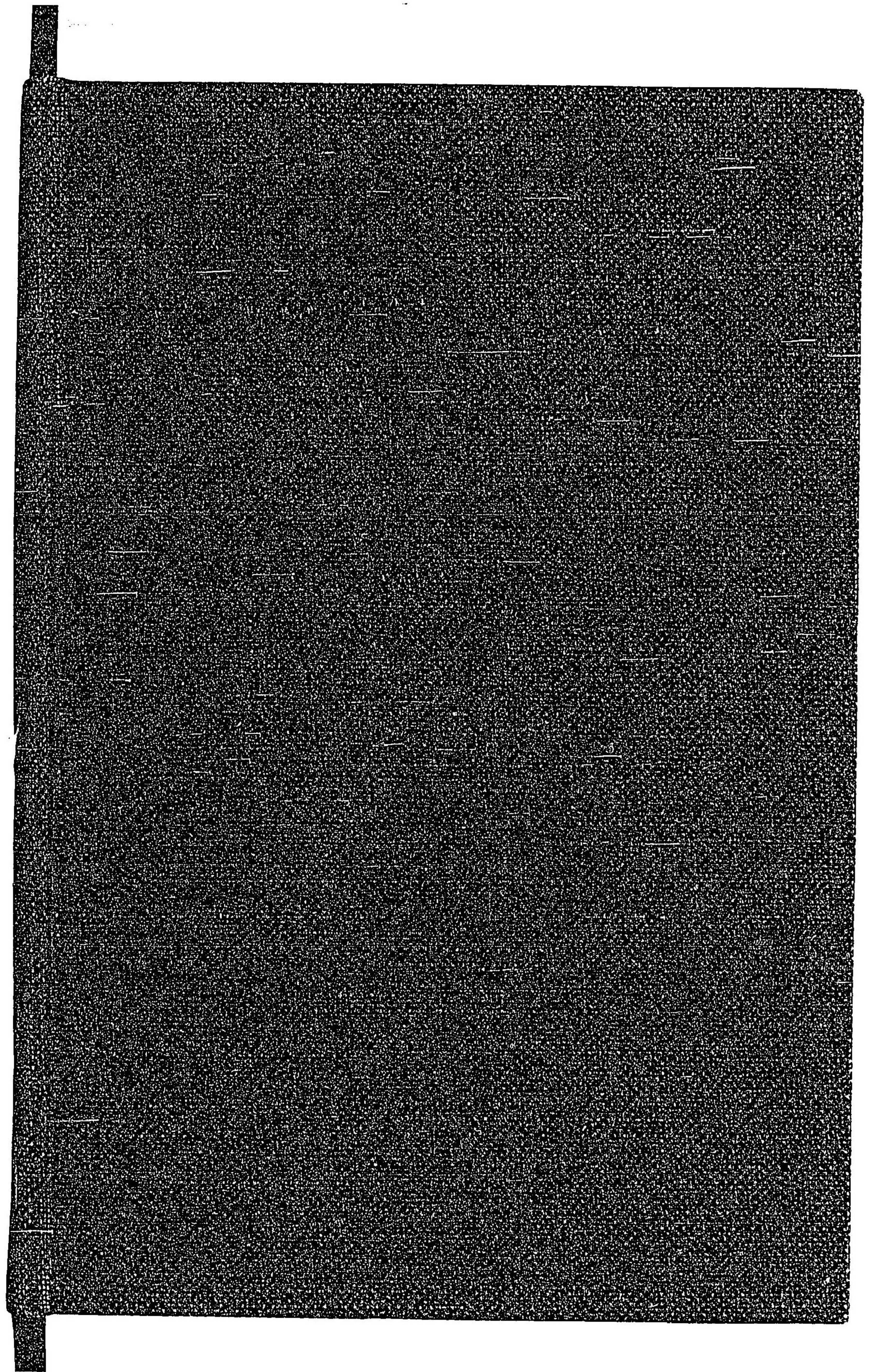
○本條ハ刑期限内更ニ罪ヲ犯シタル者ハ假出獄ヲ許サ  
 サル旨ヲ定ム  
 假出獄ノ前後ヲ問ハス刑期限内ニ於テ再ヒ重罪輕罪ヲ  
 犯セシ者ハ假ヒ悛改ノ狀現ハル、モ假出獄ヲ許サス是  
 レ刑期限内再ヒ罪ヲ犯セシ者ハ假ヒ悛改ノ狀アルカ如

キモ眞心悔悟シタリトノ權測乏シケレハナリ然レトモ  
 假出獄ハ必スシモ之ヲ許サ、ルヘカラサルモノニ非ス  
 且刑期限内再ヒ罪ヲ犯セシ者ト雖モ必スシモ眞心悔悟  
 スルコトナキニ非サレハ刑期限内再ヒ罪ヲ犯セシ者ト  
 雖モ眞ニ悔改ノ狀現ハレタルトキハ假出獄ヲ許シ以テ  
 其過ヲ悔ヒ善ニ遷ルヲ勸誘セラレシコトヲ希望ス

第七節 期滿免除

○本節凡テ五條刑ノ期滿免除ニ關スル規則ヲ定ム  
 刑事ノ期滿免除ニ二種アリ一チ公訴ノ期滿免除トイヒ  
 一チ刑ノ期滿免除トイフ本節ハ則チ刑ノ期滿免除ニ關  
 スル規則ヲ定ム





29  
41

035737-001-4

29-41

刑法釈義

堀田 正忠/著

M16

BBP-0312





